ライオン誌（毎月20日発行）第53巻第7号 2010年12月20日発行 第3種郵便物認可

LION

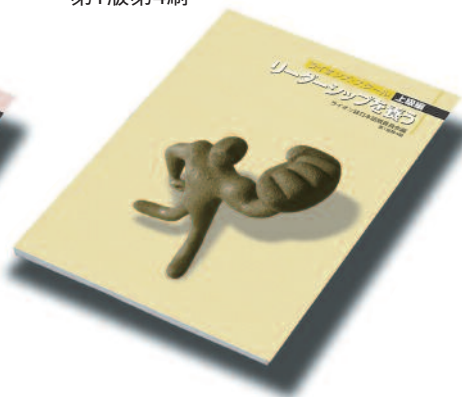
IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP JANUARY 2011 1

水辺の環境を守る

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第2刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第2刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jpあてにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………□部
●クラブ運営の基礎知識 …………□部
●リーダーシップを養う …………□部
●ウィ・サーブ ……………………□部
●ライオニズムよ永遠に …………□部
●『ライオン』誌創刊号復刻版 ……□部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

LION MAGAZINE IN JAPAN
January 2011, Vol.53 No.7

We Serve CONTENTS

■2011年1月号
表紙
東京都文京区
根津神社 透塀
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC™認証紙を使用しています。

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

奉仕の精神をたたえて

　私がライオンズに加わったのは奉仕したいと望んだからです。ライオンズは極めて特別で意義深い何かに打ち込んできたのであり、会員として年月を重ねるほど、私はそのことを強く実感するようになっています。世界中の人々が文化や宗教、伝統を問わず、何世紀も前から他者に奉仕することの重要性を認めてきました。ガンジーは「人生は一度しかない。役に立つこと、人のためになることは今すぐやろう。この道は二度と通らない道だから」と語り、マホメットは「人生の真の豊かさとは人に施した善行である」と言いました。またウィルフレッド・T・グレンフェル卿も、「この世界は『所有する』ためではなく『与える』ためにある。それ以外の意味は存在しない」と述べています。

　贈り物の季節に当たるこの時期、『ライオン』誌本部版の12／1月合併号では、奉仕の精神をたたえています。私たちはライオンズの会員として1年中、人々に奉仕し、配慮し、分かち合っています。「与える」という精神は私たちを結びつけ、最も恵まれない人々や顧みられない人々の希望の光になることを可能にします。ライオンズの奉仕の精神は強力で持続的なものであり、単独で行動するのではなくエネルギー、アイデア、資源を結集させるからこそ、人のために途方もない力を発揮することが出来るのです。

国際会長は訪問した地で体験したアクティビティをブログにつづっている

　妻のジュディと私はこの１年の終わりと新しい始まりに、皆さんがそれぞれにすばらしい休暇を過ごされるようお祈りしています。しかし家族や友人と集い、数々の幸福に感謝しつつも、どうか忘れないでください。ライオンズの一員であることは、間違いなく他者に恵みをもたらします。

　2011年も引き続き奉仕の精神によって各地域社会、そして世界中に希望の光を輝かせようではありませんか。

2010-11年度国際会長
シド･L･スクラッグスⅢ世

THEME I

水辺の環境を守る

環境問題への関心が高まる中、ライオンズクラブでも植樹や資源リサイクル、啓発活動など、さまざまな取り組みが行われている。その中から、地域を流れる河川の環境を守る二つのアクティビティを紹介する。

リバーウォークに彩りを与えるハンギングバスケット

バスケットには手書きのメッセージが添えられた。堀川開削400年を祝うものや、堀川浄化を願うものが目立った

愛知県・名古屋堀川ライオンズクラブ

産官学民を一つに束ね、母なる川の水質改善に奔走するライオンズ

（取材／砂山幹博　写真／明人）

街を潤した母なる川を秋の花々で彩る

2010年は名古屋開府400年という記念すべき年とあって、市内では関連イベントがいくつも開催された。「秋の堀川花盛り」もそんな催しの一つで、市の中心部を流れる堀川を自作の「フラワーハンギングバスケット」で飾り付けようというものだ。9月28日から10月3日の6日間、錦橋西詰の広場に、460人の市民らが集まり、限られたスペースにたくさんの花を寄せ植えする作業に汗を流した。

完成したバスケットは、川からも陸からも見えるよう橋の手すりの両側に掲げられた。展示期間中には、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）も開催されており、国内外から訪れた大勢の人々の目を楽しませたようだ。フラワーハンギングバスケットは10月29日まで堀川を彩った後、作った本人の元に返却され、自宅で大切に育てられている。

リバーウォークが整備され、オープンテラスの店が立ち並んで、ヨーロッパの都市を思わせる現在の堀川端だが、もともとは名古屋城築城時に開削され

た資材運搬用の水路であった。その後、城下町に必要な食料などの物資を船で大量輸送する運河の機能を果たすようになる。そのため川沿いには問屋や木材商の蔵が軒を連ねた。現在も、市の歴史的町並み保存地区に指定されている「四間道」に商人町の面影を見ることが出来る。

以来、人々の生活と密接にかかわりながら「名古屋の母なる川」として愛され続けてきた堀川だが、昭和に入って町が産業都市として発展していく過程で徐々に汚染が進んだ。人工的に開削された堀川には、自然の水源がなく高低差も少ない。また、水の流れは潮の満ち引きに応じて行き来するだけで、本来、川が持っているはずの浄化作用がない。工場や家庭からの雑排水で汚染された川の水は町中で淀み、悪臭を漂わせるようになった。愛された川はいつしか誰にも顧みられない川へと変貌していた。

20万人署名が実現し 堀川復活の兆し

「名古屋の人にとって名古屋城と熱田神宮、そしてその間を結ぶ堀川は特別なもの。しかしドブ川にしか見えない堀川に、多くの人が後ろめたさを持っていました」

とはある名古屋市民の談。こうした気持ちの表れからか、流域各所ではかなり以前から清掃活動が行われていた。しかし、いずれも点の活動でしかなく、汚染の進んだ都市河川をよみがえらせるには、もっと広い視野とダイナミックな動きが必要であった。

大きな動きのきっかけとなったのは、ライオンズクラブであった。1999年5月に名古屋市内30のライオンズクラブが合同で、木曽川から堀川へ導水する計画を早期に実現するための署名活動を行ったところ、2カ月足らずで20万人近い署名が集まった。

「この署名活動は市民の連携を深めただけではなく、行政に働き掛けるきっかけを作りました」

と話すのは、活動を「堀川の浄化」に特化し、2003年に結成された名古屋堀川ライオンズクラブ（長尾信夫会長／47人）のライオン服部宏。この後、同クラブを中心に堀川浄化活動は具体的な動きとなって加速していく。

名古屋堀川ライオンズクラブでは、堀川1000人調査隊の活動の他、名古屋工業大学と共同で「堀川エコロボットコンテスト」を実施している。昨年は5回目の開催で、企業や一般市民が作った堀川の環境改善ロボットが多数披露された

行政を動かす働きぶり 堀川1000人調査隊

20万人署名以降、急速に市民間の連携が進んでいることを見てとった名古屋堀川ライオンズクラブは、これを機に大きなネットワークを構築しようと考えた。そこで自分たちが事務局となり、市内の全ライオンズクラブの協力を得、堀川浄化活動に賛同してくれる市民を千人集め「堀川1000人調査隊」を組織した。自然の水源を持たない堀川には、水環境を維持するため市北部を流れる庄内川から毎秒0・3トンが導水されている。この導水量を一時的に増

今では観光船が行き交うが、かつて堀川は物流の動脈として名古屋経済を支えていた

やしたら、堀川がどのように変化するかを調査するのが彼らのミッションだ。04年、4カ月間の調査だったが、国の助成金も出る活動となった。調査結果からは堀川のさまざまな問題点が浮き彫りとなった。導水の増加だけでは堀川は奇麗にならず、下水処理の改善が必要であることが分かった。

翌05年、今度は行政側からの働き掛けがあった。下水処理場で1カ月間だけ高度処理実験を行った場合、堀川の水質が改善されるか調査してほしいという。そこで再度調査隊を組織して、水質の変化を調べた結果、高度処理は堀川浄化に効果があることが分かった。この結果、名古屋市は件の下水処理場へ恒久的に高度処理を行う施設を導入している。この第二次調査隊の活躍で、官と民の協業が具体的に形になった。その後、07年4月から3年間という長期にわたり第三次調査隊が組織され、木曽川からの導水効果を調査。3年間の導水実験は満了したが、調査活動は現在も継続中だ。

「この活動で分かったことは、堀川に関心を持ち、この川を愛する人の輪を広げることが結果的に川の浄化につながるということ。だからいろいろなイベントで、堀川に興味を持ってもらう工夫をしています。川に飾られた花のバスケットもその一つですよ」

と服部。彼らの地道な勧誘活動のおかげで、調査隊員は現在1万6千人を超す。彼らは定期的に水質を管理する定点観測隊、歴史や文化といったテーマで川を調査する自由研究隊、そして調査はしないが、活動を支援する応援隊の三つに分かれ、いつの日か「母なる川」がかつての姿を取り戻せるよう、今日もこの川を見守っている。

堀川の水上で栽培している空芯菜。水中の栄養分であるリンや窒素を吸い上げ、水質の浄化に貢献するという

川底からネットをすくい上げると、ところどころで水生昆虫がうごめいていた

335-D地区第5リジョン第2ゾーン（兵庫県）

清流を守るため、流域住民と共に川を見つめ続ける

（取材／砂山幹博　写真／明人）

水生生物の生態で川の水質を分析する

源流を中国山地の分水嶺江浪峠に発し、瀬戸内海に注ぐ全長67㌔の千種川は、日本の名水百選にも選ばれるほどの美しい清流で知られる。この川の流域にあるライオンズクラブが、ふるさとの自然環境を良く知り、大切にしていこうと、小中学生らと共に毎年実施している調査活動が「千種川水生生物調査」だ。調査は水そのものではなく、川に生息する水生生物で行う。水生生物とは川底にすむ昆虫などの総称だが、こうした生物がすむ場所は水質の状態を反映するため、その種類や数を調べることで川の水環境を評価することが出来るというわけだ。

千種川流域には13万5千人が暮らしており、1960年代に入ると、こうした家庭からの雑排水などで川の水がかなり汚染された。そんな背景もあって、69年に佐用ライオンズクラブ（四方田義夫会長／19人）が誕生すると、「ふるさとの清流を守ろう」という目的の

下、川が置かれた状況をつかむためにこのアクティビティがスタート。活動を開始した73年から2年間は佐用ライオンズクラブ単独で行っていたが、佐用周辺だけではなく流域すべてで調査しないと意味がないということで、3回目以降は上流の宍粟市（旧千種町）から河口の赤穂市までの流域5クラブ（相生、赤穂、上郡、佐用、千種）共同で行う活動へと発展した。更に2009年に結成された光都ハーモニーライオンズクラブも加わり、現在は流域63カ所において、小中学生らの協力を得、6クラブ一斉に調査を行っている。

残らずすべてピンセットで採取

9月第1土曜日の一斉調査の日、千種川支流佐用川のとある河原を担当したのは佐用小学校の6年生たち。3班に分かれて学校の先生とライオンズのメンバーから調査方法の説明を受け終わると、待ち遠しかったのか勢い良くジャブジャブ川へ入っていった。

以前に比べ浅くなった佐用川。川底の石に藻が付いているのが河原から見てもよく分かる

川の汚れによって生息する水生昆虫も異なる。写真は少し汚い水を好むトビケラの一種

「千種川の中流域に当たる佐用周辺は、ちょうど支流が枝分かれしている場所。本流の他に支流の調査もあるため、受け持つ場所が32カ所と千種川全体の約半分を占めます」

と、子どもたちへの調査指導を担当するライオン山川隆は説明した。調査場所は毎年同じで、市内に10校ある小学校と三つの中学校、そのほか婦人会のメンバーで32カ所を手分けして担当する。

この日行われた調査を順に説明しよう。最初は、岸から3～5メートルの場所を選び水温と流速を測る。ある班が選んだのは、水温31度、流速毎秒1・8メートルと比較的流れの緩やかな場所であった。選んだ場所と計測した数値を記録したら、川の中に50センチ四方の枠を定め、枠内にいる水生生物を残らずすべて採取する。採取の方法は、定めた枠の下流に目の細かい大網を設置し、川底を足でかき回す。網を引き上げるのと同時に川底の石も大きなタライに拾い上げて、うごめく水生生物をピンセットでつまみアルコールの入ったフィルムケースに入れる。一連の作業を、対岸の同じような場所で行えば調査終了となる。この後、フィルムケースは研究者のもとに集められ、分析された後データ化。最終的に研究結果として冊子にまとめられる。

この生物調査によって、川の水質は「奇麗」「少し汚い」「汚い」「大変汚い」に分けられるが、子どもたちの調査した場所には、浅瀬で流れがなく、少し汚い水のある場所に生息するヒラタドロムシが目立った。

山を育てなければ、川は元に戻らない

流域の町が下水道を整備したこともあり、昔に比べ千種川は奇麗になった。が、佐用に限って言えば「過疎化が川を駄目にした」という。千種川上流にはもともと広葉樹林が広がっていた。かつて国の政策でそれらを切り倒し建材用のスギやヒノキを植えたという経緯があるが、その山を管理する人が過疎化によっていなくなった。管理されなくなった荒れ山には保水力がないため、

小さな虫も見逃さないよう、目を見開いて石をのぞき込む

水は留まることなくそのまま激流となって下流へ大量の土砂を運ぶ。反対に日照りが続くと川の水は一気に激減。水量が減れば水温は上がるため、水は澱み生態系も変化する。佐用小学校の子どもたちが調査した場所で、かつては見られなかったヒラタドロムシが目立っていたのはこのためだ。

09年8月、台風9号に伴う記録的豪雨が佐用町を襲い、死者不明者20人を出す被害を引き起こしたことは記憶に新しい。この時も山奥に放置されていた枯れたスギ・ヒノキが大量に流れ、それが橋に引っかかり、橋を何本もなぎ倒している。

「川の水質を変えるには、山を育てなければ」と気付いた5クラブは山の保水力を復活させるべく、04年に千種川上流・宍粟市の山林に「ライオンの森」を創設した。根の張り方が浅く大雨に弱いスギやヒノキを伐採し、かつてそうであったように根ががっしりと山肌をつかむ落葉樹を5年計画で2500本植林した。この植林によって川の水量が一定に保たれ、淀んだ浅瀬に清流が戻る、という壮大な計画だ。

「見た目では確実に奇麗になっていますが、水生生物の生態にまだ変化は見られません。これから徐々に変わっていくのを見守っていきます」

とL山川は期待を寄せている。

社会奉仕の力

第49回東洋・東南アジア・ライオンズ(OSEAL)フォーラムは11月18日〜21日、台湾第2の都市、港町・高雄で開催された。日本の登録者数は3342人、開催国台湾は1万3300人、総計2万58人を数える大型フォーラムとなった。

19日：高雄アリーナで開かれた開会式でスピーチするシド・スクラッグス国際会長

フォーラム会期中の4日間はまずまずの天気に恵まれ、那覇よりも南にある高雄は日中は暑いくらいの日射し。日本で晩秋の寒さがこたえていた人は快適に過ごしたことだろう。別名、美麗島と呼ばれる台湾の南部に位置する高雄は、2007年に台北との間を90分で結ぶ台湾高速鉄道が開通しアクセスがぐっと良くなった。新鮮な海の幸を使った料理、フルーツ、にぎやかな夜市。魅力満載の舞台だ。

ホストの力量発揮で快適進行

今回のフォーラム・テーマは「奉仕の力」。マグネット・リン フォーラム委員長はこう呼び掛けた。

「私たちは日々奉仕の心を忘れずに、更に多くの人々が私たちの活動に参加出来るように働き掛けていきましょう。奉仕の力によって希望の光を灯し、より良い社会を実現させましょう」

シド・スクラッグス国際会長やエバハルト・ヴィルフスLCIF理事長は、国際協会やLCIFに対するOSEALの多大な協力に言及し賛辞を惜しまなかった。参加者たちは皆、自分たちの持つ奉仕の力に誇りを感じたはずだ。

開会式は1万5千人を収容する高雄

第49回東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラム
2010年11月18～21日　台湾・高雄

希望の光を灯す「奉仕の力」

アリーナで行われ、立ち見が出る程の人の入り。会場外のフード・フェスティバルでは、さすが屋台大国・台湾、さまざまな店が軒を連ね、人々は目移りしながら舌鼓を打った。

2万を超える参加者を得てのスムーズな運営は、ホストの努力とホスピタリティーの賜物である。高雄フォーラムは大成功を収めたと言えよう。今回のフォーラムでは、2011～13年国際理事候補者として、ライオン秦従道（宮城県・仙台コア ライオンズクラブ）とライオン高田順一（富山昭和ライオンズクラブ）がOSEAL地域の推薦を受けた。両候補を支援しようと、332-C地区（宮城県）からは仙台を中心に100人余りが参加。富山からは市内クラブを中心に150人が集まりチャーター機を飛ばし

視覚障害者の歌手によるパフォーマンス。開会式はフォーラム・テーマソングを始め随所に歌が散りばめられた

フォーラム期間中は3回にわたる協議会議長と地区ガバナーの会議を始め、各種会議やレセプション、セミナーが開かれた。❶19日：国際会長と地区ガバナーの会議 ❷19日：国際第1副会長と第1副地区ガバナーの会議 ❸20日：国際第2副会長と第2副地区ガバナーの会議 ❹19日：ジャパン・レセプションで日本から立候補した2人の国際理事候補者を激励するタム国際第1副会長 ❺20日：来年の開催国フィリピン・レセプション ❻20日：LCIFセミナー ❼20日：スリヤティー元国際理事がモデレーターを務める英語セミナー

た。また、333・E地区（茨城県）は地元の茨城空港から高雄へ直行便を飛ばそうというガバナーの呼び掛けに150人が応え、こちらもチャーター機で現地入りした。日本に次ぐ登録者数だった韓国からは、例年の2倍に上る2400人が参加。順調な会員増を背景にして地域内での存在感を示した。

どんなOSEAL、どんなフォーラムを目指すか

一方、OSEALフォーラムの在り

「奉仕の力」を考える日本語セミナー

フォーラム3日目には日本語、中国語、韓国語、英語の各言語ごとにセミナーが開かれた。日本語セミナーでは不老安正国際理事がモデレーターを、山浦晟暉国際理事がサポート役を務め、秦従道、高田順一両国際理事候補が「奉仕の力」をテーマに、自作のパワーポイント資料を使いプレゼンテーションを行った。

ライオン秦は、新たなアクティビティの可能性として、サイバー・ライオンズクラブを例に挙げた。そのメリットは、遠隔地に住む人や体が不自由な人でもインターネットによる例会や活動に参加することが出来、ITを活用して運営費を削減し事業資金を増加出来ること。活動としては悪質サイトを摘発するネットパトロールや、動画サイトを利用した全国弁論大会、災害時連絡網の構築などが考えられる。

ライオン高田は、社交クラブ的な共同体組織と目的達成のための機能体組織の両面を持つライオンズクラブの特性に言及。この性質を生かすために、各人が自分はクラブで何がしたいかを自覚すること、またクラブの歴史や原点を知り未来について話し合うことが大切だと述べた。会員の動機がまずあって、クラブの方向性が見いだせるからだ。

2人ともメルビン・ジョーンズがライオンズクラブを創設した、その原点に返ることが重要だと語った。ビジネス・サークルのネットワークを活用しつつ、目的を社会奉仕にシフトした柔軟性と利他的精神、行動力が現代も変わらず求められているのだ。

21日：閉会式では今回のフォーラムの参加者数、決議事項などを発表。OSEAL地域の推薦を受けた秦（❽）、高田（❾）両国際理事候補者が豊富を述べた

❺

❾

❽

❼

方について再考の必要性を共有する機会もあった。会議の場では、セミナーなど誰もが参加出来る機会をもっと設けるべき、毎回多くの途中退場者を出す開会式そのものを考え直す必要があるのではないか、といった意見が出された。

国際協会が掲げるフォーラムの目的は、協会の目的と方針を促進する／地区及びクラブ役員を指導、教育、動機づけする／合同奉仕事業の機会を含む奉仕活動について情報や意見を交換する／LCIFに対する関心を高める、ことである。OSEAL地域に属するのは18の国、そして26万の会員。各国からメンバーが集うこの貴重な機会をどのように生かすことが出来るのか。何を得ようとするか、おのおのの立場で熟考することが肝要だろう。企画という骨組みに参加者一人ひとりが肉付けし彩色して、イベントが完成されるのだ。

次回、記念すべき第50回を迎えるフォーラムは11年11月24～27日の日程でフィリピン・マニラ首都圏のパサイ市で開かれる。そして第51回は日本・福岡での開催。半世紀の節目をステップアップの機会として、進化するOSEALでありたい。

（文／柳瀬祐子　写真／河村智子）

フォーラム参加者リポート

日本から参加した会員が見て、感じた 高雄フォーラムのフォト・リポート

2012福岡フォーラムに向けて

初めてフォーラムに参加しました。2012年に福岡で開かれる第51回OSEALフォーラムに備え、視察団の一員としてほとんどの会合に立ち会いましたが、全体的にはあまり楽しいものではありませんでした。一般の参加者は開会式を見て、あとは観光して帰るだけです。ほとんどの会合は、地区ガバナー以上の役員の方々のためにあるようです。

2005年の仙台フォーラムでは、ITや女性会員などいくつかのテーマでミニ・フォーラムを開催されたと聞きました。実行委員会では、一般会員が参加意欲を持てる意義のある催しを福岡でも企画すべきだと進言しているところです。私にとって、フォーラム最大の醍醐味は全国の友人に会えることで、そういった面ではとても楽しかったです。しかしそれも再会したい友人がいればこその話です。ですからクラブや地区の垣根を越えた事前の仲間作りがフォーラム成功の鍵になると思っています。

(ライオン徳永修一郎／福岡大名ライオンズクラブ／337-A地区青年アカデミー委員長／ライオン誌サポーター)

OSEALの仲間と共に

開会式は盛大で、会場内では花火がさく裂し、華やかな雰囲気であった。会場を埋め尽くす人数に圧倒された。残念なことに、登録キットとして渡された同時通訳のラジオからは日本語が聞こえず使えなかった。国際会長のメッセージがその場で理解出来たら更に感激したと思う。

会場では各国から集ったメンバーとピンや記念品の交換を行った。私は西陣織の柄がプリントされた折り紙で折り鶴を作り、100円ショップで買ったマスコットと一緒に袋に入れて50個ほど持参した。台湾の女性メンバーに大好評であった。「ウィ・サーブ」の精神を共有するOSEALの多くの仲間と同じ場所に居ることの幸せを感じた。

(ライオン青木賢吾／静岡県・裾野ライオンズクラブ／334-C地区IT・ライオンズ情報委員長／ライオン誌サポーター)

ライオンズ会員の誇り感じて

まさに世界一のボランティア団体らしく、高雄市内がフォーラム一色に彩られ、歓迎ムードいっぱいでした。開会式のセレモニーが最高潮に達した頃、スクラッグス国際会長夫妻が入場されると会場は割れんばかりの歓声と拍手が鳴りやまず、異様な雰囲気さえ覚えました。会長からは世界的規模のライオンズ活動の報告がありましたが、場内の興奮で聞き取れず、ただその瞬間に会員として高雄フォーラムに参加している自分が誇らしく思えました。

(ライオン末岡優／宮崎県・高原ライオンズクラブ／337複合地区指導力・情報・PR・IT委員／ライオン誌サポーター)

カンペイ、カンペイで交流

高雄はそれ程大きな街ではないだろうと思っていましたが、人口150万人という大都市でした。開会式会場の立派なアリーナは満員で、外にも大勢の人があふれていました。フォーラムは今回で6回目ぐらいですが、いつもに比べて人数が多いという印象でした。開会式の日の夜は恒例の「北海道の夕べ」で、道内から参加した会員と和やかな時を過ごしました。

私たちのクラブは10年前から台北のクラブと姉妹提携を結んでいます。翌20日はその台北東区ライオンズクラブの例会に出席しました。我がクラブ15人の他、同じく姉妹関係にある福岡南ライオンズクラブ、大阪府・八尾ライオンズクラブも招かれ、大歓迎を受けました。カンペイ、カンペイが果てしなく続き、会長の案内で二次会へ。大いに飲み、語らって、交流を深めました。

(ライオン山田清司／北海道・札幌時計台ライオンズクラブ／331-A地区PR・ライオンズ情報委員長／ライオン誌サポーター)

疑問感じたフォーラムの意義

同じクラブの会員10人で出席しました。開会式会場に行くと座る所も無いぐらいで、やっと3階に席を見つけました。式典が始まると各国の議長、地区ガバナー夫妻の入場で、それがかなりの時間続き、次に映像であいさつが始まったのですが、通訳機器の不良で聞こえませんでした。そうしたことも原因なのか、あっという間に帰る人が続出！ 結局我々もしばらくして退出。フォーラム行事の参加はそれだけでした。初めて参加した者にとって、これだけの時間と費用とエネルギーを使った意義は何なのだろうか？ と、疑問！

(ライオン渡辺則子／福岡桜ライオンズクラブ)

シド・スクラッグスⅢ世国際会長ご夫妻が11月11～17日、来日された。会長は14日に福岡市のホテルニューオータニ博多で334・335・336・337複合地区（出席者約３００人）、16日には東京・新宿の京王プラザホテルで330・331・332・333複合地区（約４００人）をそれぞれ公式訪問。この間、福岡県庁や東京都庁などを表敬訪問し行政の長と会談した他、アメリカ領事館や、かつて赴任していた佐世保・横須賀の米軍基地も訪れ、日本におけるライオンズの活動を説明するなど精力的に行動。更に奉仕を第一義にする会長らしく、各地でアクティビティの現場を訪れ、地元メンバーと共に活動にも参加した。

キーワードは「奉仕」

私は１９６２年から64年まで、アメリカ海軍士官として、日本に赴任していました。最初の勤務地は横須賀で、その後、厚木、岩国、佐世保などの基地に赴きました。

日本はその後、高度経済成長を遂げ、私が赴任していた頃に比べると、大きく様変わりしています。しかしながら、私が大好きな富士山は変わらずに美しい姿を見せてくれ、人々も変わることのないすばらしい笑顔で私を温かく迎えてくれました。離日から長い月日がたっていますが、古里に帰って来たような懐かしい気持ちでいっぱいです。

昨日、私は45年ぶりに佐世保を訪れることが出来ました。そこで新しい言葉を習いました。それは「キズナ（絆）」です。今日、この世界には私たちを必要とするさまざまなニーズがあります。私たちは「キズナ」を深め、それらに応えていかなければなりません。そして、そのために私が選んだのが、「希望の光」というテーマです。

私は国際会長プログラムを策定するに当たり、過去のプログラムを見直してみました。その中で、会員問題にあまりにも比重を置きすぎていたきらいがあるのではという思いを抱きました。

しかも、そうした試みにもかかわらず、２万人の新会員を迎えながら、１万９千人が去って行くという現実があります。彼らは、どうして退会していくのでしょう。それを考えてみました。

そして、そのキーワードは「奉仕」にあると気付きました。会員獲得に目を向けすぎていたことで、本来の奉仕へのアプローチが、ややおろそかになっていたからではないでしょうか。

そこで私は、基本に返ることにしたのです。基本とは言うまでもなく、私

a BEACON of hope

■シド・L・スクラッグスⅢ世国際会長日本公式訪問

あなたたちこそ希望の光

11月14日、ホテルニューオータニ博多における国際会長セミナーから収録

取材／鈴木秀晃

たちのモットー「ウィ・サーブ」です。この言葉をもう一度、見つめ直してみたいと思います。

95・96年度のウィリアム・ワンダー元国際会長は「我々の問題は会員数の不足ではない。リーダーシップの不足である」と語りました。これにより協会は数々のプログラムを策定し、リーダーシップの向上を図ってきました。

そこで私は、次のステップとして、「奉仕」を強調していきたいと思うのです。会員は皆、招請によってクラブに加わるわけですが、その後もライオンズに止まるのは、会員としての誇りと満足を得られるからでしょう。そうした誇りや満足は、誰かの力になれた時に得られるものではないでしょうか。

私はライオンズの会員であることの「誇り」を取り戻したいのです。そのために、全員が参加出来る「奉仕」に目を向けたいと思います。そうすれば、会員数は結果として付いてくるはずです。

奉仕に全力を注ぐ誓い

今年度、四つの「グローバル奉仕実施キャンペーン」を掲げました。

まず8月の国連「国際青少年デー」に合わせて、ライオンズクエストや青少年交換、レオなど、青少年に焦点を当てたプログラムを呼び掛け、多くのクラブがそれに応じてくれました。また「世界視力デー」がある10月には我々の伝統的な活動・視覚障害者支援、12月、1月は世界的な飢餓にスポットを当て、最後に、「アースデイ」の4月に環境保全活動をお願いしています。

更に、これら四つのグローバル奉仕実施キャンペーンを強調するため、2月にオークブルックの国際本部で「ライオンズ・グローバル奉仕サミット」を開催する予定です。これには他の奉仕団体やボランティア組織のリーダーたちを招請し、奉仕における最新の動向について討議すると共に、奉仕のネットワークを構築することになります。2年前にも青少年を主たるテーマにした同様の企画を行い成功しており、今回も期待を寄せています。

もう一つ、今年度の新しい試みとして、国際協会公式ウェブサイト上で、会員の皆さんから「奉仕に全力を注ぐ誓い」に署名してもらうという企画を実施しています。これは「私たちの光を一層明るく輝かせることが出来るように、また人々の生活にいい影響を与えられるように本年度の奉仕に全力を注ぎます」との誓いに対しサインして頂くもので、これまでに約2万4千人

のメンバーが参加しています。

ここで、ある数字をご紹介しましょう。「18カ月」です。何だと思いますか？　これは残念ながら、退会者が在籍した時間です。

多くの新会員は入会後18カ月以内に、ライオンズを去っているのです。なぜ、かくも短い時間に彼らはクラブを辞めていくのでしょう。この数字は彼らが、誘われるまま簡単な気持ちでライオンズに入会したことを物語ってはいないでしょうか。また、中には招請する側も、アワードが欲しいという間違った目的で会員獲得を行っている例さえ見受けられます。

だからこそ、「奉仕に全力を注ぐ誓い」を思い出して頂くことで、自分たちは奉仕をするためにライオンズでいるという認識を新たにして頂きたいのです。奉仕に焦点を当てることが、ひいては会員増強や維持にとっても、重要な要素になるのです。

奉仕こそが最良のＰＲ

さて、実際の奉仕活動と共に、広報活動も忘れてはならない大事な仕事です。今年度、私はＩＴ部に指示をして、オンラインのアクティビティ報告を全面的に改良し、各クラブが簡単に広報出来る仕組みを整えました。

福岡の公式訪問前に行われたセミナーで

数年前、毎月送信だったアクティビティ報告が、年1回でもいいという形に変わりました。これは間違ったメッセージだったと思います。協会は会員数しか眼中にない、という印象を与えてしまったのではないでしょうか。

そこで今年は、数値ばかりでなく、活動の内容や写真もオンラインで報告出来るようにしました。更に来年1月には更にアップグレードし、投稿された活動を世界中で共有出来るようにします。どこの国のどのクラブが、どんな活動をしているのかといった情報が、瞬時に共有可能になるわけです。

例えば「グローバル奉仕実施キャンペーン」の一つ、8月の青少年奉仕では、１１００件の活動が１００カ国以上の国々からこのシステムを使って報告されました。時間に換算すると8万6千時間にも上ります。こうしたキャンペーンによってアクティビティが増えることで、「ライオンズに入るにはどうしたらいいか」という質問も寄せられています。アクティビティこそが最良の広報活動なのです

もちろん、各クラブでは継続的に実施している優れたアクティビティがいくつもあるでしょう。しかし、四つの

分野でそうした活動を持たないクラブは、このキャンペーンを機に、新しい活動を企画して頂きたいのです。そして、残りのキャンペーンでも大きな成果が上がることを期待しています。

情報共有で奉仕の幅を

ここで広報について、もう少しお話してみたいと思います。国際協会のウェブサイトの中に「会長ブログ」というのがあるのをご存じですか？

白状しますと、今年度が始まる前、PR部のスタッフから「今年はブログを書いてもらいます」と言われたのですが、私はブログが何なのかすら知りませんでした。そこで早速、孫に聞いたものです。孫はブログだけではなく、フェイスブック（Facebook）やツイッター（Twitter）のことも教えてくれました。こうして私は新しい言葉をたくさん覚えなくてはならず、更には慣れないブログの更新という仕事に挑戦しなくてはならなくなりました。

しかし、7月23日に書いた初めてのブログは、5万5千人もの人が見てくれたのです。この数字だけを見ても、世界中の多くの人が、ライオンズとは何かを知ろうとしてくれていることを物語っていると思いませんか。

それ以来、公式訪問では必ず、奉仕活動の現場を見せてほしいとお願いしています。そして私が見たアクティビティをブログに書いて、全世界に知らせているのです。先日、大阪で世界視力デーの国際イベントが開催され私もそれに参加し、その様子をブログに書きました。すると、ノースカロライナにある私のクラブに、Eメールでたくさんの問い合わせが入りました。

また、世界視力デーの折、私と妻のジュディは日本ライトハウスで目の不自由な方とブラインドピンポンをする機会がありました。私にとって初めての体験でしたが、優れた活動だと思い、私が理事長を務めているノースカロライナの盲学校に提案し、ブラインドピンポンを採り入れてもらいました。

世界中には他にも視覚障害者向けのプログラムがあるはずです。それを知ることで活動の選択肢が広がります。そういう意味でも、新しいアクティビティ報告や、ブログを始めとしたソーシャルメディアを通じて情報を発信することが重要になるのです。

最後に皆さんにお願いします。困っている人たちのために、奉仕の光をずっと輝かせ続けてください。あなたたちこそが、「希望の光」なのです。

11月14日、国際会長夫妻は337-A地区第2リジョン、第4リジョンが造成しているアイランドシティ中央公園（福岡市東区）の「ライオンズの森」を訪問、記念植樹を行うと共に園内を視察した

11月16日、東京・新宿駅東口のアルタ前広場で330-A地区の会員らと一緒に薬物乱用防止のキャンペーン活動に参加。道行く人々に啓発パンフレットなどを配布した

■国際理事
山浦晟暉
（東京新宿）

国際会長公式訪問と第49回OSEALフォーラムの11日間

シド・L・スクラッグスⅢ世国際会長が、11月11日から約1週間来日され、福岡と東京で公式訪問が開催されました。

会長は自身のテーマ「希望の光」について、「荒れ狂う海を航行する船を安全な航路へ導く『灯台の光』のように、皆さんは恵まれない人々に生きる勇気と希望をもたらす『希望の光』になってください」と強調されると共に、国際会長賞他、数々のアワードが贈呈され、和やかなうちにも意義ある公式訪問となりました。

会長は常に微笑みを絶やさず、慈愛深く、思いやりに満ちた「まさにライオンと呼ばれるにふさわしい方」という印象でした。

福岡では県庁、市役所、アメリカ領事館、角膜摘出病院、有田焼人間国宝への表敬訪問、「ライオンズの森」での記念植樹等、東京では皇居、首相官邸、都庁等への表敬訪問、女性会員ワークショップや、薬物乱用防止キャンペーン等に参加された他、アメリカ海軍パイロットとして青春時代を過ごした思い出の地、佐世保、横須賀両基地への訪問等、ご夫妻共々精力的に行動され、大変有意義な1週間でありました。

第49回OSEALフォーラムは11月18日から4日間、エキゾチックな香り漂う台湾の港町・高雄で、「奉仕の力」を大会テーマに、日本から約3250人、総数約2万人が集結し過去有数の規模で盛大に開催され、フォーラムでは東洋・東南アジア各国ライオンズ発展のために「友好と親善」「地区運営とアクティビティの情報交換」「国際協会の目的と国際会長方針の推進」「大会参加の啓発」「LCIFの強化」等の目的が達成されました。

期間中、コーカス・ミーティングにおいて2011～13年国際理事候補者として日本のライオン秦従道とライオン高田順一が、2011年度国際第2副会長候補としてオーストラリアのライオンバリー・パーマーが紹介され、決議委員会を経て推薦が決まり、7月のシアトル国際大会で選挙に臨む運びとなりました。

国際執行役員ら出席の下、協議会議長と地区ガバナーの会議が3回開催され、韓国から出されたステアリング委員の増員についての提案は継続審議となった他、また次回第50回OSEALフォーラムはフィリピン・マニラ首都圏のパサイ市で、第51回は福岡での開催が発表されました。

なお、今期最初の3カ月で2クラブ以上のエクステンションまたは会員純増を遂げた地区ガバナーに贈られるファーストライト賞を、日本は35地区中32地区が受賞しました。

ジャパン・レセプションでは国際会長始め国際役員、そして各国のお客様をお迎えし、秦、高田両国際理事候補のお披露目が盛大に開催された他、各種セミナー、地区ガバナーを囲む会、そして台湾独特の民族性を発揮した郷土色豊かな国際会長歓迎晩餐会等、思い出に残る楽しい高雄での4日間でした。

閉会式では国際会長らが、フォーラム委員長他関係者各位に敬意と感謝の意を表され、この大会の成功は今後のOSEALの発展に大きく貢献するであろうと称賛の拍手が送られ、参加者は来年フィリピンでの再会を誓い合い、フォーラムは惜しまれつつ閉会となりました。

女性、若手の会員増強を考える女性だけのワークショップ

11月14〜16日、東京・中央区の銀座ラフィナートで、国際協会主催の日本ライオンズ女性会員ワークショップが開催された。このワークショップは今後、より多くの女性や若い世代をライオンズクラブに引きつける方策を検討するために開かれたもので、国際協会が日本における女性会員増強の課題や現状を的確に把握して、地域に合った戦略を練る上での意見聴取を目的としている。今年5月にチェコ・プラハでヨーロッパ女性会員ワークショップが開かれ、第2回目はシド・スクラッグス国際会長の意向によって日本での開催となった。日本の全会員に占める女性会員、若手会員の割合は、世界水準のほぼ半分に留まっていることから、日本における女性、若手の増強に大きな期待が寄せられている。

ワークショップの参加者は、国際協会の会員プログラム及び新クラブ・マーケティング課が選定した13人で、現職地区ガバナーから入会2年未満の会員まで経歴も世代も異なる女性会員が全国から集った。ファシリテーターは同課のスー・ヘイニー課長とベッカ・ピエトリーニ課長補佐の女性2人が務め、日程の2日目から3日目の昼過ぎまで1日半を掛けて、率直に問題点やアイデアを出し合い、ディスカッションを重ねた。協会が今後の戦略プランを立てるためのリサーチという目的を果たしつつも、参加者にとっては貴重な情報交換、意見交換の場ともなり、この出会いを機に今後も交流が深まっていきそうだ。

このワークショップの模様は、本誌2月号「ピックアップ」で詳しくリポートする予定。

OSEAL地域推薦の国際理事候補者

11月18～21日まで台湾・高雄で開催された第49回東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムで、OSEAL地域の2011～13年国際理事候補者2人と、2011・12年度国際第2副会長候補者の推薦が決議された。

推薦を受けた国際理事候補者は日本の秦従道元地区ガバナー（332複合地区／宮城県・仙台コアライオンズクラブ）と、高田順一元協議会議長（334複合地区／富山昭和ライオンズクラブ）の2人。秦ライオンは76年仙台青葉ライオンズクラブ入会、96年度リジョン・チェアパーソン、02年仙台コア ライオンズクラブチャーター・メンバー、02年度地区ガバナー、06年の第44回OSEALフォーラム組織委員会本部事務局長などを歴任。高田ライオンは84年にチャーター・メンバーとして富山昭和ライオンズクラブに入会。90年度クラブ会長、99年度リジョン・チェアパーソン、03年度地区ガバナー、06年度協議会議長、07、08、10年度の講師育成研究会講師、09年地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループ・リーダー、08年度からはグローバル会員増強チーム（GMT）のリーダー（西日本担当）などを務めている。なお、OSEALの国際理事定数は3人で、もう一人はタイから出ることが地域内の協定によるローテーションで決まっているが、今フォーラムでは立候補者の発表がなかった。また国際第2副会長候補者は、オーストラリアのバリー・パーマー元国際理事の推薦が決まった。国際理事、国際第2副会長の選挙は、7月にアメリカ・ワシントン州シアトルで開催される第94回国際大会で行われる。

2012年のOSEALフォーラムは福岡で

2012年の第51回OSEALフォーラムの開催国は日本。高雄フォーラムでその開催地とフォーラム組織委員会委員長が正式に発表された。開催地は福岡市（12年11月8～11日予定）で、フォーラム組織委員長は不老安正国際理事が務める。

なお、次回11年の開催地はフィリピン・マニラ首都圏のパサイ市で、日程は11年11月24～27日、フォーラム組織委員会委員長はマイケル・ソー国際理事。

輝かしいスタートを切った日本の地区ガバナー32人

今年度最初の3カ月に会員増強で優れた成績を収めた地区ガバナーに授与される「輝かしいスタート賞」の受賞者が発表された。この賞には二つのレベルがあり、ファーストライト賞（二つの新クラブ結成もしくは会員増加を9月30日の時点で達成）を受賞したガバナーは世界で270人、ブライトライト賞（五つの新クラブ結成及び会員増加を9月30日の時点で達成）を受賞したガバナーは30人。日本では32人のガバナーがファーストライト賞を受賞し、11月20日に開かれた高雄フォーラムの国際会長晩餐会で表彰を受けた。

日本からの国際第2副会長候補者擁立を目指して

2010・11年度八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（増田十郎世話人）は、日本からの国際第2副会長候補者擁立を検討するための会議を、12月16、17日に東京で開催する。16日は不老安正、山浦晟暉両国際理事と各複合地区の元国際理事の中から代表者1人、協議会議長が出席する国際第2副会長候補者擁立検討会を、翌17日は国際理事、協議会議長と地区ガバナーの会議を開いて、全日本一丸となって国際第2副会長候補者の擁立を目指す。

韓国・慶州で上位ライオンズ・リーダーシップ研究会

11月11日～14日、韓国・慶州の慶州ヒルトンでOSEAL地域の上位ライオンズ・リーダーシップ研究会が開催された。国際協会のリーダーシップ部が、毎年1回、会則地域ごとに開いているもので、OSEAL地域全体の参加者は114人、日本は34地区から35人が参加した。この研究会はゾーン、リジョン、地区のレベルでの指導者育成を目的としていることから、本来は副地区ガバナー就任前の会員を対象としているが、日本では副地区ガバナーの参加が慣例となっており、今回も参加者の8割以上が第1、第2副地区ガバナーだった。日程は昨年までの5日から4日に短縮され、カリキュラムの変更でよりリーダーシップの強化につながる中身の濃い内容となった。講義は日本語、英語、中国語、韓国語の各クラスに分かれて行われ、日本語クラスでは、金子正之元330・C地区ガバナー、団英男335・A地区第1副地区ガバナー、北島建則元337複合地区ガバナー協議会議長の3人が講師を務めた。

この研究会は例年、OSEALフォーラムの会期前後にフォーラム開催地で開かれるが、今回は日程も場所もフォーラムとは異なり、しかもシド・スク

パラグアイ

貧しい人々の視力を取り戻すために

草刈りを生業とするニコラス・エスコバルさんは、仕事中に片目をけがし、白内障でもう一方の目も失明の恐れがあった。彼の賃金は乏しく、必要な手術を受ける余裕などなかったが、幸運にも首都アスンシオンにあるライオンズ - ビジョン・ラテン・アメリカン・コミュニティー・ヘルスクリニックで、無料の白内障手術を受けることが出来た。

視力ファースト交付金64万7,150ドルを投入して2008年に建てられたこのクリニックは、貧困層に対するアイヘルスを専門とする施設で、パラグアイだけでなくラテン・アメリカにおける最初の包括的地域アイケア・プログラムだ。クリニックは今後3年間に、30万人以上の患者を治療し、パラグアイの白内障手術の40％に当たる年間6,000件の手術を実施し、特に重要なことにアイケア専門家の倍増を目指している。ボリビア、ペルー、エクアドルなどの国々の眼科医療関係者が、クリニックで先進的なトレーニングを受ける。

パラグアイでは多くの人々がアイケアを受けられずにいる。眼科医が不足し、国内の眼科医190人の9割が首都に集中している。国内には避けられるはずの失明がまん延し、15万人近くが白内障によって視力を失っている。

ライオンズ - ビジョン・クリニックは国境近くまで伸びる2本の主要高速道路の近くに位置している。今日も視力に問題を抱えた人たちが、ポケットにわずかなお金を、胸には大きな希望を持って集まってくる。彼らはここで視力を取り戻し、希望に満ちて帰路につく。

フィンランド

隣人への奉仕

10年前に仕事を引退したピルヨさんは、夫のペッカさんと共に避暑地のコテージに移り住むことにした。フィンランドの厳しい寒さにも耐えられるよう、自分たちで改装を手掛けていたある日、66歳のペッカさんは心臓発作で帰らぬ人となった。丘の上に建つコテージの工事は、まだ半分しか終わっていなかった。

イマトラの町で建設会社を経営しているライオントミ・ユノネンは、ピルヨさんのかつての隣人で幼馴染みでもあった。「私は彼女に、コテージを完成させると約束しました。必要な資材さえあれば、作業代は要らないと言ったのです」と、ライオンユノネン。

事情を知ったピルヨさんの友人や元同僚が手助けに集まり、イマトラライオンズクラブのメンバーたちもハンマーやのこぎりを手に作業に加わった。コテージは冬の寒さが訪れる前に完成した。ライオンユノネンは言う。「隣人のためにこうして奉仕することが出来たと同時に、友人でもあったペッカへの弔いにもなったと思います。一緒に作業してくれたすべての人に感謝します」

ラッグス国際会長の日本公式訪問とも日程が重なったことで、参加者の負担が重く、また不便を感じた点もあったようだ。しかしその感想からは、参加の意義は大きかったことがうかがえる。以下、参加者の感想（一部抜粋）。

「研究課題の中でいちばん心に残ったものは『ライオンズのチームを支援』というプログラムだった。アクティビティは目標を立てる時から、全員がかかわることが成功への道と感じた。研究会で学んだことを、今後時間をかけて実践していきたい」（波木奏美元リジョン・チェアパーソン〈333・C地区〉）、「リーダーとしての在り方、プロジェクトの立て方、コミニケーションの取り方など、自分がクラブやゾーンで抱える問題点と重なる部分がたくさんありました。講師からの問題提起を小グループで話し合い、意見を集約し、それを取りまとめて発表するという手法はとても参考になりました」（森下進334・B地区第2副地区ガバナー）、「他国の参加者は若手会員がほとんどで、高齢化の波にさらされて会員減少に歯止めが掛からない我が国のライオンズの姿が想起された」（井上勉337・A地区第1副地区ガバナー）。

国連との提携活動を祝う 国連ライオンズ・デー

第33回目を数える国連ライオンズ・デーは2011年3月18日、アメリカ・ニューヨークの国連本部ビルで開催される。国際協会と国連の66年にわたる歴史的な提携活動を祝うもので、シド・スクラッグス国際会長による発表や国連代表者によるスピーチ、国際平和ポスター・コンテスト授賞式などが行われる。参加希望者は国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）の国連ライオンズ・デーのページでオンライン登録が出来る。登録期限は11年2月11日。

会議録

第4回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（10月29日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：桜井孝一、古谷野環、其田桂、小野忠博、堀田和之、辻吉治、武久一郎、増田十郎各議長、不老安正、山浦晟暉両国際理事）

【第I部】議長協議①前回会議要録の確認②スクラッグス国際会長公式訪問日程③第49回OSEALフォーラム④国際第2副会長候補者の件⑤日本ライオンズ連絡事務所管理委員会関係⑥335複合地区からの提案及び報告⑦ライオンズクエストについて（330複合地区）⑧各種会議・委員会報告⑨議長の権限について⑩IT委員長連絡会議の開催について（335複合地区）⑪奄美豪雨災害義捐金のお願い【第II部】国際理事との懇談⑫秋季国際理事会報告⑬その他国際レベルの話題⑭第I部議長協議の報告及び確認

第4回ライオン誌日本語版委員会（11月8日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：山浦晟暉国際理事、秋山詔樹、後藤忍、種市一二、林静誠、砂田繁雄、竹本實生、小田邦雄、澁田繁晴各委員、小野忠博議長、荘英隆、小柴登司両ITアドバイザー）

①八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議におけるライオン誌関連事項②11月号（10万5600部発行）出来③12月号記事内容の確認④1月号以降台割（案）と主要記事予定⑤ライオン誌日本語版事務所の運営⑥その他

新結成クラブ

千葉県・市原かずさ（露崎清美会長）▼11月3日結成▼スポンサー／市原

訃報

■献眼

10月＝ライオン余語靖夫（茨城県・水戸西）／ライオン井上高臣（静岡県・御殿場）

334～337複合地区（西日本）担当
GMTリーダー　**高田順一**

高雄フォーラムでのGMT会議

2008年度に発足して以来、継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム(GMT)」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、交替でチームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。

第49回ＯＳＥＡＬフォーラムが11月18～21日まで台湾・高雄市で開催され参加致しました。高雄一の高層ビルにあるザ・スプレンダーが大会本部ホテルです。このホテルには2月末に開かれた第1回ステアリング委員会とＯＳＥＡＬのＧＭＴ会議で2泊、3月には講師育成研究会（ＦＤＩ）の講師として7日間を過ごしており、今回が今年3回目の滞在でした。私の所属する富山昭和ライオンズクラブは高雄市信義ライオンズクラブと友好クラブの関係を持っています。早速高雄の会員が歓迎会を開いてくださり、おいしい料理を堪能しながら友好を深めました。そして日に日に参加者が増えるごとに宴会も盛大になっていきました。

18日は第2回ステアリング委員会に続いてＧＭＴ会議が開催されました。スクラッグス国際会長（ＧＭＴ委員長）、タム国際第1副会長、マデン国際第2副会長が出席され、後藤隆一会則地域リーダーが進行役となって会議が始まりました。各エリアリーダーから現状の報告、課題とそれを克服する計画を話し、スクラッグス委員長が質問する形をとりました。ＯＳＥＡＬは各地域とも順調に会員増強がなされ、新クラブも結成されています。スクラッグス会長から「ＯＳＥＡＬは国際協会が会員増強を果たす上で強力な原動力になるので、これからもがんばって頂きたい」と励ましの言葉がありました。

私からは日本の現状として次のようなことを報告しました。

- 各地区ガバナーが積極的に会員増強に取り組んでおり、結果も順調に推移している
- 当初の目標達成を肯定的に考えているガバナーが多数おり大変頼もしい
- 毎年、年度末に多くの退会者があることから、会員維持に特に力を入れなければならない。そのため具体的には、クラブでの「リテンション・ワークショップ」の実施を強く求めていきたい

このリテンション・ワークショップと、国際本部から各地区あてに送付されたクラブ向上プロセス（ＣＥＰ）に関して質問等がありましたらご遠慮なくご連絡ください。ご支援申し上げます。

日本国内での動向の中から、337-Ａ地区（福岡）で青年アカデミー委員会が設置され、来年1月にフォーラムを開催することも紹介しました。このような新しい試みを国際協会、ＧＭＴが支援することで、日本の若い会員が自覚と誇りを持ってネットワークを広げていくことが出来、それが会員拡大につながることを説明し、スクラッグス国際会長の同意を頂きました。

今回のフォーラムでは、コーカス・ミーティング及び協議会議長と地区ガバナー会議での協議を経て、秦従道元332-C地区ガバナーと私をＯＳＥＡＬの2011～13年国際理事候補者として認める決議を頂きました。11年6月末までの3年間、ＧＭＴエリア・リーダーとして貴重な経験を得る機会を与えて頂いております。この経験を国際理事としての任務に生かしていきたいと存じます。皆様のご指導ご鞭撻を頂きますようお願いを申し上げます。

7. ノーザントラストにおけるLCIFの遺贈計画用口座設置を実行するため、理事会方針書のLCIFの章に記載される投資に関する個所に必要な文言を加えた。
8. 理事会方針書のLCIFの章に記載される監査規定を、次の点について改めた。a) LCIFステアリング委員会を含める。b) 飛行機による旅行に関する個所を更新。

リーダーシップ委員会

1. ハワード・リー元国際理事（イギリス及びアイルランド）を2011年地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループ・リーダーに任命。
2. 2011年地区ガバナー・エレクト・セミナーのスケジュール及び課程を承認。
3. 次期第1及び第2副地区ガバナー、並びに次期協議会議長のために2011年5月に行われる研修会に対するアフリカ・ステアリング委員会からの資金援助の要請を承認。

会員増強委員会

1. 中国の大連、青島、北京をライオンズが存在する新たな地域として反映させるべく、理事会方針書を更新。
2. 次の4点を除き、ライオンズクラブ国際協会監査規定のすべての標準的な規定を、GMT監査規定に含めた。1. 往復10時間を超える飛行機による旅行については、プレミアムエコノミー座席へのアップグレードをGMTリーダーに許可。2. ライオンズクラブ国際協会は、GMT会議に同伴する配偶者／成人同伴者の旅費を負担しない。ただしGMT国際コーディネーター、または理事会会議に出席するよう具体的に求められたGMTメンバーについてはこの限りではない。3. ホテル宿泊費については1人部屋の宿泊費用のみ支払われる。4. 旅行中の食費については、ライオンズクラブ国際協会が1日につき最高75㌦まで負担する。

PR委員会

1. 元国際会長及び元国際理事もライオン表彰アワードの受賞者を推薦出来るようにした。

奉仕事業委員会

1. 2010-11年度及び2011-12年度レオクラブ・プログラム諮問パネルのメンバー及び補欠員を選任。

上記決議事項のいずれかに関する詳細は、国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）でご覧頂くか、国際本部（電話：630-571-5466）にお問い合わせください。

LION

ウィ・サーブ
日本ライオンズ
半世紀の航跡

B6判　332ページ
1部800円・送料実費
●50部以上ご注文の場合は送料無料

1952年3月に日本に初めてのライオンズクラブが誕生してから50年、その間に世界有数のライオンズ国となった日本ライオンズ半世紀の軌跡をたどる。日本ライオンズ年表付き。

●お申し込みは、ファクスまたはEメールで。
●地区名・クラブ名・氏名・送付先住所・電話番号をお忘れなく。

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
ライオン誌日本語版事務所
Tel.03-3542-9571　Fax.03-3546-2630
E-mail. office@thelion.jp

国際理事会の決議事項要約

スコットランド・エジンバラ
2010年10月1日〜4日

会則及び付則委員会

1. 大会交換ピンに関する方針を、理事会方針書のクラブ用品の章から同方針書の法律の章に移し、その文言を簡略化した。
2. 地区及び複合地区の紛争処理手順を改定し、該当する地区（単一、準、複合）に関して明確にした。
3. 理事会方針書に記載される地区紛争処理手順において、調停者選任、調停者選任に対する不服の申し立てにかかわる個所を改正し、最低50ドルの手数料を設けると共に、該当する地区（単一または準）について明確にした。
4. 国際付則第12条2項に規定される国際会費を2012年7月1日より2年間かけて段階的に4ドル増額する改正案を2011年国際大会に提出すること、並びに当該個所の条文を簡略化することを承認した。

大会委員会

1. 2011年シアトル大会におけるレオの登録料を次のように承認した。12〜17歳のレオは10ドル、18〜30歳のレオは50ドル。
2. 2011年シアトル大会におけるインターナショナル·ショーで、ケビン・スクラッグスが司会者等として出演することを承認。
3. 2011年シアトル大会の資格証明委員会に任命されたライオン、地区ガバナー・エレクト、地区ガバナー・エレクト・セミナー講師、国際本部職員の日割許容額（宿泊費、食費）を設定。

地区及びクラブ·サービス委員会

1. 中国の瀋陽及び西安においてクラブ数が17かつ会員数が450に達した時点で暫定地区編成を承認。更に地区名を決定し、同暫定地区の2010-11年度地区ガバナーを任命する権限を執行委員会に付与。
2. 中国の浙江省を含めることにより、386暫定地区を拡大。
3. ブータンを322-F地区の中に含めることを承認。
4. ガイディング・ライオン・プログラムに関する理事会方針を改定し、ガイディング・ライオンが一度に担当出来るクラブの数を一つまでに限ると共に、公認ガイディング・ライオンが「公認」の認定を維持するためには、3年ごとに新たにコースを履修しなければならないとした。
5. 地区ガバナー・エレクト・セミナー経費に関する理事会方針を改定し、地区ガバナー・エレクトのホテル滞在日数を1日増やすことでガバナー・エレクトが国際大会のすべての行事に参加出来るようにした。
6. クラブ解散に関する理事会方針を改定し、クラブが解散処分とならないようにするためには、ステータス・クオ処分を受けてから30日以内に地区ガバナーが再建計画を提出しなければならないこと、更にクラブがステータス・クオの状態にとどまり解散とならないようにするためには、計画提出後6カ月以内に再建に向けて測定可能な進歩が認められなければならないこととした。

財務及び本部運営委員会

1. 黒字となる2010-11年度第1四半期収支予想を承認。
2. 航空運賃が1,000ドルを超える場合には事前の承認を得なければならないと、理事会方針書第22章E.1.b.項を改訂。
3. 往復の距離が600マイル（966キロ）を超えるクラブ訪問に対する承認申請は、国際会長ではなく国際本部財務部に提出されるよう、理事会方針を改訂。
4. 飛行時間が地上での乗り継ぎ時間を含めずに10時間を超える旅行をする元国際会長には、アップグレード費用の支給を承認。この支給額は、実際の航空運賃から入手可能な最低額のビジネスクラス航空運賃を差し引いた額となり、これは該当の課税の対象となる。
5. レンタカーに関して、理事会方針書第22章E.1.e.項に事務的な変更を加えた。

LCIF

1. 投資方針声明文を改定し、a) 一般基金の確定利付き収入及び証券の資産配分制限の上限引き上げを反映させるとともに、b) 遺贈計画投資に関する文言を加えた。
2. 今後のLCIFステアリング委員会メンバー選任プロセスの実施を、2011年4月の会議で更に討議するまで保留し、2010年6月に承認された選任プロセスに関連する第14決議の一部を撤回した。
3. 36件（総額1,840,614ドル）の一般援助交付金、国際援助交付金、四大交付金を承認。
4. 1件の交付金申請を継続審議事項とした。
5. 「ライオンズ - スペシャルオリンピックス・オープニングアイズ」プログラムを延長するため、1,123,606ドルの交付金を承認。
6. 投票権のない役職としてLCIF会計補佐職を設け、本役職にLCIF財務アナリストを任命した。

CLUB REPORT

クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は54ページ参照

島根県・金城抱月ライオンズクラブ

特製ライオンズ饅頭で事業資金獲得

浜田市金城町は島根県西部、北は広島県との県境を成し、山陰と山陽を結ぶ交通の要衝となっている。昔から石見神楽が盛んな土地で「神楽の町」と呼ばれ、また日本近代演劇の父・島村抱月生誕の地としても知られる。

11月23日、その金城町で毎年恒例の桑の木園大収穫祭が開催され、金城抱月ライオンズクラブ（藤田喜富会長）も参加した。同クラブはハーブの葉やクコの実を入れた薬膳風ライオンズ饅頭を販売。朝8時から収穫祭終了の午後3時まで、会員たちが交代で饅頭を焼き続け、約1500個を売り上げた。

桑の木園は1974年、知的障害を持つ子どもの親たちが、障害者が納得出来る施設を作ろうと、署名運動や募金活動を展開して設立された。その理念に基づいて、障害者が積極的に地域の中に溶け込んでいくような活動を実践しており、収穫祭もその一環として開催され、今年で35回を数える。

金城抱月ライオンズクラブは88年から収穫祭に参加し、当初5年はバザーを実施。その後しばらく裏方として協力し、97年からライオンズ饅頭で出店、収益は桑の木園への助成や、青少年育成にかかわる三つの事業に充てている。

収穫祭には市内だけではなく、隣接する江津市や広島県の北広島町からもやって来るため、来場者は3千人に上る。1個80円のライオンズ饅頭も毎年、行列が出来る人気店となり、会員たち

は手を休める暇もなく、饅頭を焼き続けることになる。

「当日は確かに目が回るぐらい忙しいんですが、こうしてライオンズ饅頭が出来るのも、饅頭を焼く銅板を提供してくれるL西谷友紀のおかげです。しかもL西谷は饅頭のネタづくりも一手に引き受けてくれ、我々は焼いて売ることに専念出来るというわけです」

と、岩土政弘幹事は話す。

金城抱月ライオンズクラブは1981年に結成され、今年で30年目を迎える。年度当初は24人でスタートしたが、節目の30周年を会員数30人で迎えようと、チャーター・メンバーのL藤田が2度目の会長を引き受け、会員増強に努力。12月までに見事その目標を達成した。

（取材／鈴木秀晃）

静岡芙蓉ライオンズクラブ

「和の心」に親しむ課外授業

　藤枝市岡部町と言えば、京都の宇治、福岡の八女と並ぶ玉露の日本三大産地の一つ。岡部茶は、徳川家康が愛飲したことでも知られている。この町では、以前はお茶の保存や運搬をするための茶袋に使う和紙づくりも盛んに行われ、朝比奈和紙という名で親しまれていた。

　お茶と和紙、郷土が誇る二つの伝統文化を子どもたちに体験してもらおうと、11月18日に静岡芙蓉ライオンズクラブ（小長井敬会長／48人）が静岡市立玉川小学校の全校児童約40人を招待し、「朝比奈和紙の紙漉きと抹茶のお手前体験」を行った。このアクティビティには「国際化社会の中で日本人としての誇りと自覚を持ち、外国人に日本の伝統文化を堂々と伝えることが出来る大人に育ってほしい」（小長井会長）という願いが込められている。

　いきいき交流センターで行われた紙漉き体験で、子どもたちははがき作りに挑戦。薄く均一な厚さのはがきを作るには経験とコツがいるが、朝比奈和紙づくり保存会の皆さんの指導もあって、見事全員が奇麗なはがきを完成させた。最後に引率の先生たちが挑戦すると、「先生しっかり、もっと垂直にしなきゃだめだよ〜」と生徒たちから声が掛かる。この時ばかりは先生もたじたじで、終始笑顔の絶えない課外授業となった。

　同じ時間に、「玉露の里」で行われた抹茶のお手前体験では、茶室に入るのは初めてという子どもたちも多く、少し緊張ぎみの様子。出された抹茶を一口飲んで「苦い！」と顔をしかめるところまでは想像出来たが、それ以前に正座が苦痛のようだった。

「和の心」を理解するにはまだまだ時間が必要かもしれない。それでも、この年頃は何より見て、触れて、感じることが大切。

「今はただ体験するだけでいいんです。将来きっと何かの役に立ったり、心の支えになるはず」

　と小長井会長は目を細めた。

　近い将来、この中から世界を飛び回る国際人が生まれるかもしれない。その時はぜひこの日の体験を思い出してほしい。

（取材／安藤英則）

福岡県・久留米ちとせライオンズクラブ

聴覚障害者とデイキャンプ交流会

久留米ちとせライオンズクラブ（時里一男会長／33人）は10月17日、さわやかな秋晴れの下、久留米市ふれあい農業公園広場でウォーキング&デイキャンプを開催。聴覚障害者の皆さん57人を招待しライオンズ家族と交流した。

　第15回を迎えたこの交流会。1996年に久留米市社会福祉協議会の主催で聴覚障害者1日ハイキングが実施され、当クラブはボランティアとして参加したことが始まりである。初回は号令などの意思疎通がうまく出来ず、苦労が多かったようだ。

　現在は当クラブの全員参加のアクティビティとして、市社会福祉協議会及び視聴覚言語障害者福祉協議会、久留米市手話の会のと打ち合わせを行い、事故など起きないよう細心の注意を払って取り組んでいる。市には無料福祉バスの手配を、障害者福祉協議会からは手話の会のボランティア通訳等をお願いしている。

　今回は福祉会館から農業公園までは往復約2時間のバスハイク。耳納山麓の観興寺までは約1時間のウォーキングだ。公道を歩く時は一般交通からの安全確保にハンドマイクが使えず、注意を払って手振りで誘導した。

　昼食のバーベキューでは4台の炭火コンロで焼肉、焼きそば、サンマ、焼き芋を焼いた。お腹をすかせた参加者は焼き上がるのが待ち遠しくてコンロの周りに群がった。皆、楽しくおいしそうに、しかもたくましい食べっぷりで、あっという間に食べ尽くした。

　食事の後は景品付きのグラウンドゴルフやジャンケンゲームに沸いた。

　ライオン・レディーや孫たちも参加しており、障害者と健常者との交流は子どもの情操教育にも大変良いことだと思う。今後もこの交流会を継続していきたい。（三献委員長／谷山廣行）

岐阜県・美濃大野ライオンズクラブ

小学生のサツマイモ掘り体験

　クラブ活動に熱心な国枝勝彦会長は、青少年健全育成活動として小学生にサツマイモ栽培と収穫の喜びを体験してもらおうと考えた。町教育委員会に提案したところ、大野町立東小学校長から「ぜひお願いしたい」と歓迎の連絡があった。

　早速、提案者である細健二四献委員長と教育委員長の私が中心となって企画を練った。栽培地には太田宏美幹事が所有する300平方メートルの遊休地を使わせてもらうことにした。5トンダンプカー30杯分の産廃再生土を搬入、造成。その上に腐葉土3杯を混入し、トラクターで7列の畝を整地した。サツマイモの苗は鳴門金時種を550本用意。5月21日に苗植えを行ったのだが、残念ながら生徒たちは授業の都合で参加出来ず、会員10人で作業した。

　収穫までの間、生徒は観察を行い、会員たちも草取り、水やり等、苦労しながら育てた。特に今年は残暑が厳しく、芋も人もがんばった。

　9月10日、いよいよ収穫の日。クラブでは全員分の手袋とスコップ40個、ビニール袋500枚等を準備。小学校1、2年生113人が先生7人に先導されて、学校から歩いて10分の畑にやってきた。国枝会長から芋掘りの注意事項などの説明を受けた後、会員17人の協力の下、作業開始。児童たちは土の中から次々と大きなサツマイモを掘り出しては歓声を上げ、イモの大きさを比べ合って楽しんでいた。作業は50分程で終了。掘ったサツマイモは全部で1500個にもなり、全校生徒320人に3～5個ずつ配布することが出来た。

　今年初めての企画は成功を収めたと言えよう。学校長から、来年度はぜひ苗植えも行いたいと要望されている。

（教育委員長／所和美）

三重県・名張ライオンズクラブ

養護学園の子どもたちとの交流会

名張ライオンズクラブ（43人）は10月9日、「みんなで知ろう自然。そして守っていこう　これからの地球環境」と題し、名張養護学園の子どもたちとの交流会を開催した。当クラブが毎年クリスマス・パーティーに招待している子どもたちだ。今回は名張市最大の公園・ふれあいの森で、草刈り清掃や、植物のツル・松ボックリでのリース作り、植樹などを通して自然と触れ合い、森からの恵みや自然保護の大切さを知ってもらおうという企画である。

当日はあいにくの雨。数日前から会員が手分けして下準備を進めていた森林公園の一画をトラック8台分の土砂で整地し、約6メートルの桜の木を植樹したのを始め、入口には古木を利用したライオンズのポールを設置した。

残念ながら予定していた屋外での自然との触れ合いは中止となった。そこであらかじめ準備していたクリスマス・リースの材料を養護学園の施設内に持ち込み、作成することにした。3歳から中学生まで32人の子どもたちと一緒に、針金で縛ったり、ペンキで色を付けたり、小物を飾り付けたり、真剣かつにぎやかな作業となった。山で調達してきた材料ばかりだったが、子どもたちもビックリする程すてきなリースが出来上がった。

昼食は、森の中で作るはずだったカレーの食材を、施設の方に調理して頂いてメンバー共々楽しく頂いた。

その後、市内のボウリング場に移動し、9チームに分かれての対抗戦。1位～3位、そして会長特別賞と、全員に参加賞を贈呈した。

後日、子どもたちからお礼の寄せ書きが送られてきた。雨天による計画の変更はあったものの、楽しい1日を過ごしてもらえて良かった。

（会長／森嶋茂一）

岡山県・倉敷ローズ ライオンズクラブ

キジハタの稚魚放流

いつまでも猛暑が続いていた9月21日、倉敷ローズ ライオンズクラブ（31人）は青少年健全育成の一環として稚魚の放流を行いました。

瀬戸大橋のお膝元、大畠保育園の園児たち35人と一緒に、ご父兄と近所の方々にもお手伝い頂いて放流致しました。放った稚魚は、最近減少しつつあるキジハタ（地方名：あこう）です。当地では幻の魚とまで言われるようになりました。私たちは玉野市の玉野栽培漁業センターへお願いに行き、当日、元気な稚魚500匹を運んで頂いて、放流することが出来ました。

園児たちはとても楽しかったようで、口々に「可愛かった」「波で戻ってきた」「大きくなるかなぁ」「泳いでいけるかな」等々、話し合っていました。数日後には、園児から可愛いお手紙を頂きました。

私たちはこの日、「魚が育つ奇麗な海を作るためにゴミを捨てない　海を汚さない」よう子どもたちにお話ししました。こうした体験を通して、未来を担う彼らの自然を大切にする心を育むお手伝いが出来ることをうれしく思います。有意義な事業だったと自負しています。

（会長／大塚富美子）

山梨中央ライオンズクラブ

盲導犬育成資金募金活動

イラスト／篠田和夫

「一人でも多くの目の不自由な方々へ盲導犬を届けるために、皆様のご協力をお願いしまーす」

体育の日の10月11日、イトーヨーカドー甲府昭和店内に、盲導犬育成資金募金活動に参加した生徒30人の声が響き渡った。330・B地区統一奉仕デーのこの活動も4回目を迎えた。

山梨中央ライオンズクラブ（井口太会長）は発足2期目の若いクラブで、メンバー数も19人と多くない。これまで地元のスポーツ少年団のミニバスケットボール交歓大会開催、サッカー大会の共催や、子どもたちと共に行う町内美化活動、また年間10回に及ぶ献血奉仕活動など活発な活動の一方で、より時代に対応したアクティビティに向けての見直しも考えていた。

未曾有の超高齢社会を目前に、これからは心身に障害のある人々のみならず、互いに助け合い支え合える社会の構築が急務である。

そこで次世代を担う中学生を活動に誘い、ノーマライゼーションの心を育み、住み良いまちづくりに貢献出来る人材を育てる社会教育の一環として同事業を企画したのである。

毎年、中学生の参加募集はあっという間に満員になり、終了後のアンケートでも「また参加したい」「こうした募金活動に出合ったら必ず募金する」「盲導犬への理解が深まった」などの反響が多数ある。クラブ・メンバーもこの事業への理解や参加意識が高く、お金も掛からないし、時代に即した奉仕活動と考える。

既に日本盲導犬協会への寄贈は累計額で120万円を超えた。

小規模クラブでも知恵と工夫で大きな成果を上げている。生徒たちとの交流もあり、毎年楽しい機会でもある。

（幹事／伊東誠三）

北海道・帯広中央ライオンズクラブ

「すこやか農園」収穫祭

帯広中央ライオンズクラブ（31人）は9月12日、帯広農業高校校内の農園で第9回「すこやか農園」収穫祭を開催した。

普段あまり土に触れることのない障害児（者）に、畑に種をまき太陽の恵みを受けた作物を収穫することの楽しみを体験してもらうこと、また、高校農業クラブの生徒さんたちと農作業を通して交流し、障害児（者）への理解を深めてもらうことを目的とした事業である。

かつてこの事業は「ふれあい農園」収穫祭として、高橋農場の好意と協力により21年間実施されてきた。2002年からは農業高校にバトンタッチ、名称も「すこやか農園」となった。当クラブは両時代にまたがり、27年間支援を続けている。帯広市社会福祉協議会及び障害児（者）を持つ親の会の4団体も参加する。

5月に開園式を開催、種まきを行う。6、7月は草取りや生育調査、その後の交流会では生徒さんに教わりながらアイスクリームを作った。

今回の収穫祭には230人が参加。開会式では佐々木岳志クラブ会長が若林宣龍帯広市社会福祉協議会会長へ運営資金10万円の目録を贈呈した。

いよいよ畑に入り、農業クラブ生徒のサポートを受けてジャガイモの収穫から開始。障害児（者）らは手を泥だらけにしながら次々と作物を掘り出した。次いでニンジン、カボチャを収穫。カレーライスを作り、今回初登場となるピザを石窯で焼いた。食材はすべて同校産だ。皆、「おいしいね」と大好評だった。

これからも学校及び各組織でタッグを組み、来年、再来年とこの事業を盛り上げていきたい。

（指導力育成委員会副委員長／佐藤陸宏）

京都洛陽ライオンズクラブ

洛陽文化講座開催

京都洛陽ライオンズクラブ（村上大輔／74人）が長く継続している2大事業に、47年目の金毛茶会と33年目の洛陽文化講座がある。後者は日本の文化、京都の文化を広く一般の方々に啓発すべく始められたもので、10月16日に今年度第1講が開催され通算124講を数えた。途切れず続けてこられたことに改めて歴史と先輩方の努力を感じる。

今回はNHKドラマ「龍馬伝」「坂の上の雲」の人気に便乗すべく、幕末、維新、明治初頭にスポットを当てることにした。講師に日本近現代史専攻で京都府立総合資料館長、京都府立大学名誉教授であられる井口和起先生をお迎えし、「維新・明治の青年群像」というテーマでご講演頂いた。会場の京都商工会議所講堂には多数の聴講者が来られ、熱心に聴き入っておられた。

あの時代の青年たちには漢学という学問の素養があり、その上に西洋学問を学び、「これからの日本はどうあるべきか」を真摯に考えていた。大きな志を胸に命掛けで祖国のために尽くしていたことを、講演を聞いて改めて知った。今の時代の人たちは、大いに学ぶべきところありと痛感したのである。

結びに読まれた石川啄木著『時代閉塞の現状』の一節は、まさに日本の現状そのものを示していた。時代は同じようなことが繰り返されるんだなぁと、つくづく感じた。

第2講「天皇制について」は2月か3月に、第3講「第12回式部学術賞授賞式・記念講演会」は5月に開催の予定である。（文化委員長／松本安博）

高知とさみずきライオンズクラブ

躍動感あふれるミュージカル・ワークショップ

高知とさみずきライオンズクラブ（14人）は10月4日、7日の2日間に、愛宕中学校、一ツ橋小学校、山田養護学校で、音楽座ミュージカルという劇団の俳優5人を招き、演劇教育プログラムのワークショップを開催した。次代を担う子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うと共に、文化芸術における才能の芽を育てるという趣旨に基づくものである。

音楽や振り付けを基に、楽しみながら生きる力である表現力やコミュニケーション能力を高める体感型ワークショップ。俳優たちと一緒に歌ったり踊ったり会話をしたりと、子どもたちは日常では体験出来ないミュージカルの世界を楽しんだ。

仲間作りから始まり、動作をリズムと音楽に乗せる練習を経て、やがて心の動きを音と体で表現するミュージカルの基本へと誘っていく、俳優たちの指導力はさすがであった。きらきらと瞳を輝かせリズムに乗る子どもたち。思わぬ名演技に拍手の嵐。最初は恥ずかし気に尻込みしていた子も最後は全員参加。仲間と共に躍動する姿に感激しきりであった。

別れ際、俳優たちは生徒たちの握手攻めにあった。わずか2時間の間にこれ程までに心が通い合うのもミュージカルのすばらしさであろう。養護学校生の一人が涙、涙で別れを惜しんでいた姿には心打たれる思いであった。音楽と共に感情を表現することに心躍るものを感じる。大人になるにつれ、忘れたり捨て去ったりしている素直さや感性を思い起こさせてくれた。

プログラムには、絆を求めコミュニケーション能力を養うという深いテーマが織り込まれており、ライオンズクエスト・プログラムに重なるものを感じた。子どもたちが心から望んでいるものは共に喜び、語り、活動出来る触れ合う心ではないだろうか。そうした心を育むために、私たちが今出来ること、しなければならないことは何か。そんなことを考えさせられたワークショップであった。（会長／野中かすみ）

山形アルカディア ライオンズクラブ

逆川（さかさがわ）清掃奉仕活動

山形アルカディア ライオンズクラブ（武田和秋会長／22人）は10月17日、山形市の大郷地区を流れる逆川の清掃奉仕活動に参加。地元有志で結成・活動している「すんべ会」（～しよう、という方言）と大郷小学校の児童・教師ら50人と共に汗を流した。

逆川は17年前、県内で最も汚れた川であると発表された。この清掃奉仕は、それを知った地元の人たちが、まさに汚名返上を掲げ立ち上がった活動である。が、人手不足と資金不足で運営が厳しく、援助が求められていた。その情報を聞いた伊藤二三男2007年度会長がぜひ力になりたいと、年に2回、4月と10月に行われる清掃に、クラブとして参加することにしたのである。05年に誕生した当クラブの最初の労力奉仕事業だった。

逆川では川面に鴨の群れが浮かび、魚もたくさん泳いでいて、一見汚れた川のイメージとはかけ離れた印象を受ける。が、やはり川に入ってみると、周囲を水田や果樹園に囲まれた土地柄からだろうか、農業用のビニールが川底の泥の中からたくさん出てくる。空き缶、空きビンの他、数年前にはオートバイや冷蔵庫まで捨てられていたと聞く。それでも3年前に1トンを超えていたゴミは、今回は500キロと半減。活動を継続していることの成果が実感出来た。

春の清掃時は桜が満開の時期と重なり、土手に咲き誇る桜を愛で季節の美しさを感じながら気持ちの良い汗をかく。秋は稲刈りが終わって一段落した頃で、山形の風物詩・芋煮会の時期でもある。清掃後に皆で食べる、会員らが育てた野菜がたっぷり入った豚汁は格別である。

子どもたちが放流した色とりどりの錦鯉が大きく育つよう、そして汚れた川ナンバーワンの汚名を返上すべく、これからも継続して協力していきたい。

（幹事／吉田敏雄）

岡山京山ライオンズクラブ

1日留学体験 in おもちゃ王国

9月12日、岡山県玉野市にある「おもちゃ王国」にて、日本初となる大規模イングリッシュ・ビレッジ（英語による留学体験）のイベントが行われた。

岡山京山ライオンズクラブ（41人）は宮重美信会長と記念事業委員会の推進により、連塾（英語教育一貫カリキュラム開発研究会）とのコラボレーションを実現。認証35周年記念事業として幼児から小学生を対象とした1日留学体験を開催した。

当日、不安を胸に会場へ足を運ぶと、開演前から多くの子どもたちと父兄の方々が集まってきていた。動員数約200人。昨今の英語教育に対する熱心さが我々にも伝わってきた。また後日、地元紙山陽新聞の朝刊にアクティビティが掲載された際には、その反響の大きさに改めて驚きを覚えたのである。

子どもたちは屋内イベントホールで、英語を使ってお買い物、体操、レストランでの注文、お料理教室等、八つのコーナーを体験。その後、屋外テントでトルコ、アメリカ、ブラジル、パラグアイ、オーストラリア、中国、韓国、フィリピンと、世界各国のボランティアにより、それぞれの母国の文化を教えてもらった。日本に居ながらにして世界一周体験を味わうことが出来たのではないだろうか。

我々の担当は日本。帰国した子どもたちを笑顔で迎える係だ。9月とはいえ猛暑のさなか屋外テントでの作業だったが、「おじちゃん、ありがとう」という彼らの声が大きな支えになった。

楽しそうな子どもたちの笑顔を見ることで、世界が一つになればどれほど幸せなことかを気付かされる1日となった。

（幹事／坂口範之）

広島県・呉ポート ライオンズクラブ

小学校防犯教育・体験学習

呉ポート ライオンズクラブ（小倉一悦会長／36人）は10月30日、呉教育委員会・呉警察署の協力の下、第8回小学校防犯教育・体験学習を呉市立昭和西小学校（児童数495人）で開催した。

体育館での第1部では開会行事の後、防犯ビデオ「五つの約束で大成功」を上映し、当クラブがスローガン「小学生を『悪の手』から守ろう」の下、作成した寸劇「五つの約束」を実演した。

慣例により、誘拐犯役を前会長・幹事、お巡りさん役を現職警察官、子ども役を同校6年生児童、その他をライオンズ・メンバーが演じた。

ストーリーは誘拐犯が子どもを誘拐しようと町をうろつき巧みに話し掛けるが、寸前で子どもたちが「五つの約束」を思い出して「こども110番の家」に駆け込み、無事誘拐犯は逮捕される、という内容。趣向を凝らした演出と、何度もリハーサルを重ねたことで大いに盛り上がった。

圧巻は真剣かつコミカルに逃げ回る誘拐犯を警察官が真剣な逮捕術で捕まえるシーンで、児童たちは拍手喝采、大喜びだった（毎年このシーン、前会長・幹事は戦々恐々。警察官は本気ですから）。

一件落着の後、児童全員で「五つの約束」を復唱した。

・知らない人にはついていきません
・誰かに連れて行かれそうになったら、「助けて！」と大声で助けを呼びます
・一人では遊びません
・遊びに行く時は、どこで、誰と遊ぶか、家の人に言ってから出かけます
・友達が、知らない人に連れて行かれそうになったら、大声で助けを呼びます

第2部は校庭で、村上愛犬・警察犬訓練所による体験学習を行った。種々服従訓練では警察犬の従順で機敏な動作に児童は「おお～」とどよめき、臭気識別訓練で同じ臭いを当てるとまたもや「おお～」。警戒訓練では平畝力校長が警察犬に腕パットもろとも引かれ、一同拍手喝采だった。

最後に全児童に防犯グッズのクリアファイルとシューズケースを贈呈し閉会した。

（幹事／檜垣徹）

東京八王子中央ライオンズクラブ

活動続く！ アイバンク運動

東京八王子中央ライオンズクラブ（岩崎盛司会長／29人）は1977年からメーン・アクティビティとして、八王子市民を巻き込んだアイバンク運動を展開している。チャリティー・コンサートや、「目の不自由な人」が出演する劇団の招致、市民ふれあいチャリティー・ゴルフ開催などの実績は、第14リジョン内でも高く評価されているのである。

去る10月14日には、330・A地区献眼・献腎委員長やブラザー・クラブ、献眼登録者らを招いて「第27回八王子市アイバンク運動推進協議会総会」を開催した。

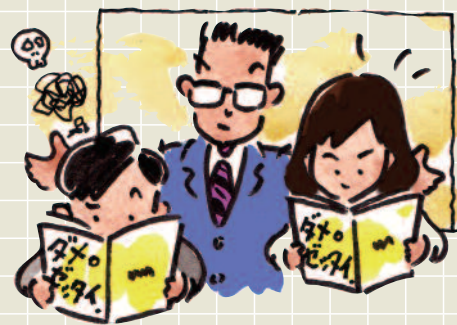
岩崎会長は、今期のアイバンク・チャリティー事業はNPO法人日本視覚障害ゴルファーズ協会（VIG）と協力して、健常者と目の見えない人が一緒にゴルフをする「ブラインドゴルフ」を5月12日に開催することを提案し、承認された。

記念講演ではVIGの伊藤道夫理事が、「目が見えなくてもゴルフができる」と題してブラインドゴルフの魅力を淡々と話され、目の不自由な人々がブラインドゴルフを楽しんでいる様子をビデオで見て、出席者一同感動した。

最後は小澤栄八郎アイバンク委員長が、「今後とも『目の不自由な人に光を！』をスローガンに、奉仕活動を実施し社会貢献をしたい」と力強いあいさつで締めくくった。

（広報委員長／井上公雄）

北海道・旭川北斗ライオンズクラブ

地元高校で薬物乱用防止教室開催

旭川北斗ライオンズクラブ（23人）は9月22日、旭川凌雲高校で薬物乱用防止教室を開催。全校生徒及び先生、職員ら650人が参加した。当クラブは高校生を対象に啓発活動に取り組んでおり今回が3回目、同校では初めての開催である。

教室では薬物の危険性を紹介したDVDを上映した後、薬物乱用防止教室認定講師であるライオン中田勲が、生徒一人ひとりに訴え掛けるように薬物の害について話をした。最後に、薬物使用が及ぼす害について掲載された小冊子を生徒たちに配布した。

生徒たちが今回の教室を振り返って書いてくれた感想の中には、次のような力強いものがあった。

「私たちに出来ることは自分の身は自分で守ること。そして周りに薬物に手を出してしまいそうな人が居たら、強い意志を持ってそれを阻止すること。薬物は陰で人から人へと伝わっていきます。私たちはそれを人の手で止めなければいけないと思います。私は看護師を目指すのですが、そういった患者さんに接する機会もあるのではないかと思います。そういう人が少しでも少なくなるように、薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』を胸に、生活していきたいと思います。ためになる講演をありがとうございました」

地域で活動しているライオンズによるこうした活動は、地域と学校が一体となって、生徒たちが健全に育つ社会を作ることになると思う。勇気を持って薬物の誘惑を拒否出来る力を身に着けてもらうことで、生徒たちの明るい未来を守っていきたい。

（会長／赤間邦博）

福岡県・行橋ライオンズクラブ

子ども会と一緒に清掃奉仕

行橋ライオンズクラブ（70人）は8月18日、近隣の子ども会と共同でJR行橋駅の清掃を行った。我々は毎月第2例会が行われる第3水曜日の早朝に、JRや私鉄の駅及び公園の清掃奉仕活動を行っている。

今回は、シド・L・スクラッグスⅢ世国際会長が「希望の光を子どもたちに」と提唱されているのに沿って、夏休みの思い出づくりも兼ねて子ども会に共同清掃を提案した。すると快く受けてくださり、子ども27人とほぼ同数の父兄、そしてライオンズ会員の総勢80人余りでの清掃活動となったのである。

当日は朝7時といえどむせかえるような熱気と湿度。汗だくになりながらゴミ拾い、雑草取り、掃き掃除を行った。幼稚園から小学校高学年までの子どもたちは、家の掃除もしたことがないという子がほとんど。最初は恐るおそるだったが、慣れてくると積極的に行動し始めるから若い力はすばらしい。次第にグループが出来、リーダーも現れ、大人社会と同じになるのが興味深い。

ゴミは圧倒的にタバコ関連が多い。空き箱、セロハン、中仕切りの銀紙など。中でも吸い口フィルターは、側溝や植木の茂み、排水口に隠すように捨ててあると見つけにくく、回収も厄介だ。愛煙家（今ではニコチン中毒者とも呼ぶ）のマナーの悪さを痛感した。他にはペットボトル、空き缶、お菓子の包み紙、ガム、暑い季節なのでアイスクリームの包装紙も多かった。中身の無い財布や定期入れ、なぜか自転車のハンドルもあった。

清掃終了後には、子どもたちに清涼飲料水とお菓子のセットを配布した。「ありがとうございました」とこちらから言うと、「来年もお願いします」とあいさつを返され、疲れも吹っ飛びさわやかな朝となった。

（会長／木村博）

愛知県・春日井中央ライオンズクラブ

内モンゴルの小学校に楽器等寄贈

春日井中央ライオンズクラブ（42人）の一行7人は9月4～7日、今年度メーン・アクティビティであるマエヨウ小学校支援のために、内モンゴル自治区を訪問した。

首都フフホトから車で4時間。学校に到着すると、生徒たちが校門からずらっと並んで両手で金色のポンポンを振り歓声で迎えてくれた。運動場には舞台と横断幕が設置され、校長、郷長、教育長、共産党書記たちも集っていた。テレビ取材もあった。

私はライオンズについての概要と当クラブ・スローガン「友情と平和　真心込めてWe Serve!」を紹介し、皆さんに笑顔と希望と夢を届けたいと計画した事業が実現出来てうれしく思うと伝えた。

我々が贈呈したのは、春日井市内の幼稚園から譲り受けたマーチングドラム、木琴、カスタネット等の楽器と、クラブで調達したソプラノリコーダー。文具やカバン、全校生徒85人分の机といす、パソコンとコピー機も寄贈した。

夜行われた歓迎会では、地元でとれた野菜と羊肉を使った料理を頂き、村人総出で精いっぱいの心の込もったもてなしを受けた。日本では体験出来ないような純粋なものだった。地元のガイドさんはお年寄りたちが、「65年前（第二次世界大戦時）のことは歴史にしよう。こうして遠い日本の人たちが子どものためにしてくださるのだから、これからはまた新しい歴史を作ろう」

と言っているのを聞いて驚き、民間交流の偉大さを感じたと話してくれた。

教室に入ると、平和の最小原点である「ぼくの家族　私の家族」をテーマに描いた絵が飾られていた。持参した同じテーマの日本の小学生の絵と交換した。帰国後、国際平和ポスター・コンテストの作品と共に市役所のロビーに展示し、市民の方々にも見てもらった。

約20年前に始まった、留学生を花見例会に招待するアクティビティが今回につながっている。その時、代表としてあいさつされた愛華さんが現地でお骨折りくださり、最高の訪問になった。

（会長／笠島達雄）

群馬県・太田東ライオンズクラブ

献眼登録で新記録達成

これまでに数多くの事業を手掛けてきた太田東ライオンズクラブ（岩崎亨会長／31人）。今期は初めての試みとして10月23、24日、秋のスポーツ・レクリエーション・イベント「太田スポレク祭」に参加、㈶群馬県アイバンクの協力の下、献眼登録推進活動を実施した。

太田スポレク祭は、太田市が毎年主催しているもので、今年で15回目を数える。毎年2日間に20万人ほどの来訪者がある、市最大のイベントの一つである。今年も、金田正一氏ら名球会から8人が参加してのドリームベースボールや上州太田スバルマラソン、キッズイベントなど、さまざまなイベントが催され、会場は多くの人で盛り上がった。

初参加となる当クラブは、事業をどのように展開出来るか多少の不安も感じていた。が、いざ始まってみると多くの方々が協力してくださり、献眼登録申込者数248人を得たのである。1日の申込者数では県内新記録だ。

我々は今後もこのイベントに参加し、献眼登録者数を増やしていきたいと考える。当クラブは献血事業でも献血量で県内ライオンズクラブのナンバーワンを維持している。今年度35周年を迎え、会員一人ひとりの結束も固い。今後も継続して多くの事業に取り組んでいきたいと思っている。

（幹事／田村照雄）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→54ページ

オリーブの悲鳴が聞こえた

田村　雅宥（香川県・小豆島）

今年の夏は連日、身も心も溶けてしまいそうな猛暑が続いた。

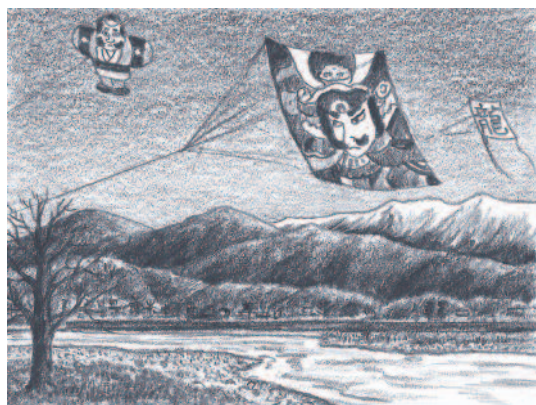
その日もやはり、うだるような暑さだった。夕方になっても一向に治まる気配がない。冷房の効いた事務所の窓から緑の山々を見ているうち、ふと「オリーブの森」の樹木は大丈夫だろうか、と気になりだした。7月11日に私たちのクラブが手入れをしたばかりだが、この暑さは植物にもこたえるに違いない。

周年行事に参加してくださったブラザー・クラブの皆さんが植樹した、大切なオリーブの樹木も「水が欲しい！」と悲鳴を上げてはいないだろうか。そう思うと、居ても立ってもいられず、「オリーブの森」に向かって車のハンドルを握った。

日本でオリーブの栽培が始まったのは明治41（1908）年、小豆島でのことだった。平成20（2008）年には、オリーブ栽培100周年を迎えている。この100年で、オリーブは全島に広がり、春には白く可愛い花が、秋には緑から紫に色付く実が、小豆島の風物詩として、訪れる観光客からも愛されてきた。またその間、昭和29（1954）年にはオリーブの花が香川県花に、昭和41（1966）年にはオリーブの樹木が県木に選定されている。

平成16（2004）年4月、瀬戸内を望む丘に小豆島ライオンズクラブが初めてオリーブを植樹してから5年目を迎えた。今では「オリーブの森」として樹木も大きく育ち、昨年度は採取した実を東洋オリーブ㈱の協力を得て「オリーブの新漬」として商品化し発売。アクティビティ資金を獲得するまでになった。

車がライオンズの森に近付くと、夕日をいっぱいに浴びたオリーブの緑が輝いていた。「しめた！」と心の中でつぶやきながら、車から降りて樹木の間を歩いた。すると「大丈夫だよ！」とささやいているかのように、緑の葉陰から青く膨らんだオリーブの実が、あちらこちらで揺れている。

植樹以来、毎年役員や委員会構成が替わっても、この森はクラブの重点アクティビティとなっている。全メンバーでの下草刈

イラスト／小川和政

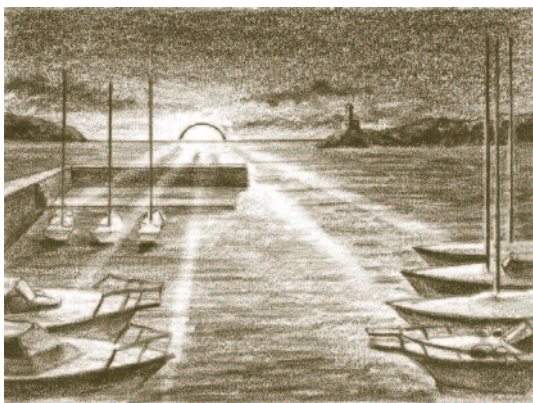
お仏壇・仏具はやっぱり京都
朝に礼拝　夕に感謝
（株）若林
伝統工芸　京仏壇・京仏具
京都本社　〒600-8218京都市下京区七条通新町東入　☎075-371-3131（代）
東京店　〒146-0081東京都大田区仲池上2-8-13　☎03-3755-8488（代）
築地店　☎03-3546-8228（代）
札幌店　☎011-512-3455（代）
仙台店　☎022-213-0666（代）
近江草津店　☎077-564-1011（代）
福岡営業所　☎092-761-3737（代）
新潟営業所　☎025-255-0868（代）
◎お仏壇のカタログ差し上げます。
◎お近くの若林各店までお気軽に。
京都ライオンズクラブ会員　若林正博

獅子吼

りや堆肥はもちろんのこと、1年を通して委員会ごとに当番制のシフトを組んで、水やりなどを行っている。「オリーブの森」は私たちクラブの、汗する奉仕活動のシンボルでもある。
　ライオンズクラブの奉仕は「地域社会の特性に応じて、またメンバーの能力に準じて、クラブごとに自由な創意・工夫が払われるべきである」と言われる。地域社会の立て直しは、現代日本の緊急課題の一つだが、私たちは地域社会での心の渇きを潤せる立場であることを痛感している。
　ライオンズの森の優しいオリーブの木陰に一人たたずむと、普段の仕事から想像出来ないような、生き生きとした行動力で奉仕するメンバーの笑顔が次々と浮かんできた。

薬物乱用防止教室開講の手順

舘　親光（東京葛飾）

　全国では非常に多くのライオンズ・メンバーが、薬物乱用防止教育認定講師の資格を取得しております。が、学校で実際に薬物乱用防止教室を開催している方は、あまり多くはないようです。それは、学校とどのように交渉し、また子どもたちにどんな講習会を行えばよいのか分からないというのが、その理由となっています。
　私も2001年に初めて認定講師の資格を取得した時は、何をどうしたらいいのか分かりませんでした。2年後に更新をしましたが、それでも学校との交渉方法が分からず、薬物乱用防止教育講師認定証は、まさにペーパードライバーと同じでした。
　これではならじと、04年春、キャビネットに相談し、薬物乱用防止委員会の仲介で、東京築地市場ライオンズクラブが銀座中学校で実施する薬物乱用防止教室をゲスト見学させてもらうことになりました。講師はライオン寺田義和（東京鶯谷ライオンズクラブ）が担当され、生徒たちはもちろん、先生方も熱心に聞き入っておられました。私は自クラブで実施している継続アクティビティとの達成感の違いを深く感じました。
　この時の縁で後日、ライオン寺田を訪ね、学校側との交渉方法や、地元警察署との関係について具体的な話を伺うことが出来ました。そして早速、新年度から行動出来るよう、葛飾区教育委員会へ提出するための資料作成準備に取り掛かりました。また、薬物乱用防止教育認定講師講座を受講した際に、参考事例として出ていた東京八王子陵東ライオンズクラブのホームページを閲覧し、その取り組みを学びました。更に同クラブの会長さんに講座の内容の一部使用許可をお願いして、東京葛飾ライオンズクラブの「薬物乱用防止教室」開催企画書を完成させました。
　04年9月、当時のクラブ会長らと共に葛飾区教育委員会へ薬物乱用防止教室の開催願いを提出しました。が、その後連絡がなく、年明け早々再提出したところ、2月になって葛飾区教育委員会指導室長から連絡があり、3月に行われる小学校・中学校の校長会で「薬物乱用防止教室」開催願いの説明を行えることになりました。
　ここでは「薬物乱用防止教室講習会開催のお願い」「開催企画書」「薬物乱用防止教室申込書」の3点を各校長に提出しました。すると、その2週間後ぐらいから、中学校2校と小学校1校から申込書がクラブ事務局あてに届いたのです。
　こうして私はペーパードライバーを返上し、以来これまでに80回以上、講師を務めさせて頂いています。その経験から、学校との折衝から実際の教室開講までの手順を簡単にまとめてみました。まだ一歩が踏み

出せずにいる認定講師の皆様の参考にして頂ければ幸いです。

①「薬物乱用防止教室」開催を希望するメンバーの方は、まず見学体験をされること

②学校関係者との人脈を生かして学校の校門が開くように努力

③ライオンズクラブから地元教育委員会に「薬物乱用防止教室」開催の趣旨を文書で提案

④校長会で説明し申込書を提出する

⑤講習会の申し込みを頂いた学校には、速やかにお礼の電話をする。更に担当の先生と事前打ち合わせの日時を確認、講習会内容の資料を作成する。同時にクラブ内で薬物乱用防止教室の役割と各種機材の準備を行う

⑥講習会の1カ月前に事前打ち合わせを行う（会場、スクリーン、電源設備、生徒数等）

⑦小学校の授業は45分、中学校は50分を確認（時間厳守）

⑧当日の授業内容（シナリオ）を各担任の先生に提出

⑨当日は30分から1時間前に会場に入り準備を行う（横断幕、DVD、プロジェクター、スクリーン、健康読本など）

⑩会場に入場する生徒たちに元気よく声を掛けながら迎える

⑪授業終了後、用具を素早く片付けて、学校関係者にあいさつして退席する

また、教室終了後、子どもたちから感想文を提出してもらっています。これは、自分の講演が独りよがりになっていなかったか、子どもたちにちゃんと伝わっていたかを確認する材料になります。私はそれにすべて目を通した上で、こちらからの言葉を添えて子どもたちに返しています。そうすることで、復習にもなると思っているからです。

今泉賞を受賞して。私たちの活動目標と取り組み

野中　直道（長崎県・波佐見）

この度、栄誉ある第2回今泉賞を頂きました。これまで数々のご指導、ご協力を賜りました㈶長崎アイバンクと㈶佐賀県アイバンク協会、ブラザー・クラブの皆様に感謝申し上げます。そして何よりも高い献眼率（同期間死亡者数の11・7％）の達成にご理解とご協力を頂いた波佐見町を始めとする地域の皆様に深く感謝申し上げます。

私たちは長崎県県央部にある人口約1万5千人の焼き物の町、波佐見町で活動しております。クラブ結成から44年たっていますが、実際の献眼活動はまだ日が浅く10年目です。しかしその間、一生懸命に活動を続けてきたことを評価して頂き、この度の受賞に至ったのだろうと思っております。

私たちは2000年から角膜移植推進活動についての勉強を始めました。㈶日本アイバンク協会制作のビデオ「がんばれアイバンク」を繰り返し見て、とにかく静岡県の小山ライオンズクラブを見習い真似することからスタートしました。01年3月、会員のお母様が最初の献眼をされ、その2カ月後に仲間である62歳の会員が献眼されました。

その後、波佐見ライオンズクラブの会館の玄関に、ビデオで見た小山ライオンズクラブそっくりの看板を掲げ、「がんばれアイバンク」や独自のスライドを用いて住民への説明会を繰り返し、町の諸行事には立て看板とパンフレットと登録はがきを持って参加しました。おかげで徐々にですが、角膜提供に

ついて住民の理解は広まりました。

角膜提供者及びその遺族の皆様に感謝し、また私たちの活動の継続を誓う意味を込め、05年3月に光と愛のモニュメントを建てました。そして毎年3月のお彼岸の頃に桜の花が咲く中、角膜提供者のご遺族をお招きし「角膜提供者への感謝の会」を催しております。光と愛のモニュメントには私たちが作った短い歌が書いてあります。

「あなたの愛で光が蘇る　あなたの愛は私を照らし　世界を映す　豊かな愛をありがとう」

この碑文を元に「愛と光のバトン」という角膜移植推進活動のための新曲が作られました。本年の感謝の会にはこの曲を作ってくださった波佐見混声合唱団にも参加して頂きました。献花式では厳粛な中に美しいハミングが流れ、式の最後に混声四部合唱が初披露され歌に魂が込められました。4月16日に、波佐見町で開催された第56回337‐C地区年次大会の記念事業「光と愛のコンサート」では参加者全員にこの歌を歌って頂きました。

今泉亀撤先生の勇気ある行動と最初の献眼者の善意から始まった日本のアイバンク活動。アイバンク運動は角膜移植に寄与するだけではなく、「思いやりの真心」を広げる活動でもあります。08年に国際移植学会が移植用臓器の「自給自足」を各国に求めるイスタンブール宣言をまとめ、更に生体臓器移植については、提供者（ドナー）保護のための保障制度作りを各国に呼び掛けることで合意しました。

角膜移植でさえまだ多くの輸入眼に頼り、国内での腎移植の多くを生体移植に依存している日本の現状は、世界の標準から大きくかけ離れています。「今後まず角膜移植の自給自足を果たし、続いて心臓死ドナーによる腎移植を推進すること」が献血・献眼・献腎推進に携わるライオンズクラブの大いなる目標ではないでしょうか。その基が「思いやりの真心」だと思うのです。

これからも会員一同、アイバンク活動に携わり、その輪を更に広げていくよう努力して参る所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

※「愛と光のバトン」のCDを20人の読者にプレゼントします。ご希望の方は氏名、クラブ名、住所、電話番号にメッセージを添えて、波佐見ライオンズクラブあてFAX（0956・85・7532）でご応募ください。締め切りは1月末日、応募多数の場合は抽選。当選の発表は発送をもって代えさせて頂きます。

尊敬するライオン工藤正孝の霊に捧げます

名越　かず代（熊本）

ライオン工藤正孝の訃報に接しました時、私は暗然として息をのみました。深い悲しみに襲われました。

その時以来、止まった時間の中で、私はライオン工藤との人生の交錯を反芻するように思い返しています。

ライオン工藤との初対面は平成3年、主人の献眼をした時でした。

まだアイバンク協会が出来ていなかったため、どこに電話をしたらいいのかも分からず、やっと連絡がついたのがライオン工藤のお宅だったのです。

遠い病院まで眼科医のライオン武藤と駆けつけて頂きました。毎日、枕元に電話を置いていますとのことでした。寒い日も夜中もあるでしょう。ご家族のご協力も大変だと思いました。それにお葬式にも出られるとのこと、感動しました。

ヘレン・ケラー女史のライオンズクラブへのあの呼び掛けに感動され、熊本のアイバンクの基礎を作られたことも知りました。自ら熊本県の献眼登録の第1号になられ、

熊本ライオンズクラブの20周年では記念事業として慰霊碑建立にも尽力されました。慰霊碑にはライオン工藤の直筆で「光と愛暖かい人間愛から献眼された方に感謝を捧げる」と記されています。

この慰霊碑は今も毎月、会員が清掃奉仕をしていますし、ご遺族を招いての慰霊式も続けられています。同時に、詳しい立派な記念誌も作られました。今はアイバンク運動の教科書になっています。全国のアイバンク協会の理事もされ、活躍されました。

宮崎での全国大会で、私が夫の献眼をしたことを話され、会場の皆様から拍手を頂きました。その体験を『ライオン』誌に投稿したところ、図らずもその年のベスト・エッセー賞を頂きました。

ライオネスクラブに在籍していましたが、その後、熊本ライオンズクラブへ入会し、いろいろなことを教わりました。毎年の地区大会や複合地区大会では、必ずアイバンクのことを一つでもいいから提言する等。ライオン工藤が体調を崩された後は、私が助言を得て必ず出席しました。ご功績はあまりにも多く、枚挙にいとまがありません。

ダンディーで温厚で愛妻家で知識の豊富なライオン工藤。ライオン工藤との出会いで、今の私があります。ライオンズ会員を続けていますのも、あの感動が原点です。

私が孫の東大の卒業式へ出ました時は、ご自分も先輩でいられたので懐かしく私の話をニコニコして聞いておられたお顔を思い出します。『ライオン』誌創刊50周年記念の会へ参加させて頂いた時も大変喜んで頂きました。

「ライオン工藤のお世話を頼む」と言われていた故ライオン尾池希雄。ご自分の方が先に逝かれましたが、お約束が果たせました。お葬式の折、奥様が発表されました言葉です。

「すばらしき人生お疲れ様でした。世のため人のためボランティア活動をされ、いつの日も誰かのために一生懸命。人様の喜びを自分の喜びにするというすばらしい人生を送った夫をたたえたい。残念なのは病のために夫の角膜が人様にお使い頂けなかったこと。でも立派でしたよと去る背中を見送ります」

夫婦愛のすばらしさに感動致しました。

さようならライオン工藤。あえてお別れの言葉を告げましょう。さようなら、さようなら。お世話になりました。感動をありがとうございました。あなたは偉大なライオンでした。ご冥福をお祈りします。

LION

ライオニズムよ永遠に
メルビン・ジョンズとその時代

B6判　224ページ
1部800円・送料実費
●50部以上ご注文の場合は送料無料

ライオンズクラブの創設者メルビン・ジョンズの生涯を時代と共に活写した労作。「メルビン・ジョンズ書簡集」「メルビン・ジョンズ寸言録」のほか、ジョンズの写真多数を掲載。

●お申し込みは、ファクスまたはEメールで。
●地区名・クラブ名・氏名・送付先住所・電話番号をお忘れなく。

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
ライオン誌日本語版事務所
Tel.03-3542-9571　Fax.03-3546-2630
E-mail. office@thelion.jp

おすすめの ippin

三重県松阪市

さわ餅

「伊勢に行きたい　伊勢路が見たい　せめて一生に一度でも」

伊勢音頭に歌われた通り、お伊勢参りは江戸時代の庶民が夢に見るような旅だった。伊勢に通じる街道沿いにはさまざまな名物餅があり、参詣する人々に振る舞われた。長旅の途上で一服した参詣者は、うまい餅で空腹と疲れを癒やしたのだろう。桑名の「安永餅」、四日市の「なが餅」、伊勢街道の最後の宿場小俣の「へんば餅」、内宮門前の「太閤出世餅」に、お馴染みの「赤福」など。聖地・伊勢への旅は餅を巡る旅とも言えそうだ。

そんな伊勢・志摩地方でポピュラーな餅菓子に「さわ餅」がある。名前の由来は、伊勢神宮の別宮、伊雑宮(いざわのみや)の竹取り神事にちなんだ笹餅が訛ったとか、並べた様子が沢の流れに見えるから、などの説がある。薄く伸ばした餅に程よい甘さの粒餡をはさみ、餅は白とよもぎとの2種類。耳たぶのような柔らかさで、しっかりとした弾力がある。伊勢は餅の聖地、と思わせるおいしさだ。

●「山作」三重県松阪市中町1857

ふるさと探訪

愛媛県西条市

西条人が待ちに待つ 平成によみがえる元禄絵巻

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

車輪が付いたみこしの見せ場。かき夫全員がみこしを押しながら疾走する

だんじりの中で太鼓を打つのは、主に中学生

太鼓の連打ちを合図に、担ぎ棒を頭上高く揭げて揺らして活気づく（16日午前2時頃、御旅所にて）

西条っ子を熱くする最大の年中行事

彼岸花が咲き、キンモクセイの香りが辺りに漂い始めると、祭り好きなこの町の人々はソワソワしだす。中学生が練習する太鼓の音色が聞こえてこようものなら、もう仕事も手に付かない。落ち着かないのは住人だけではない。「盆と正月には帰らないが、祭りのためなら」と、全国に散らばる西条出身者が祭りに合わせて帰省する。

これほどまでに西条人を熱くさせる年中行事、それが西条祭りだ。市内にある嘉母神社、石岡神社、伊曽乃神社、飯積神社の四つの神社で行われる秋の大祭の総称であるが、一般に規模が最も大きい伊曽乃神社の祭礼を指して西条祭りと呼んでいる。

伊曽乃神社で大祭が開かれるのは、10月15、16日の2日間。だんじりや、みこしと呼ばれる屋台の一種が、町中を勇壮に練り歩く姿見たさに多くの観光客が訪れる。町では学校や多くの企業がこの期間はお休み。商店街の店はどこもシャッターが下りていて、張り紙には「祭りのため休業」と書かれていた。飲食店や旅館まで店を閉め、主人らはだんじりのかき夫（担ぎ手）に、奥様方は炊き出しに駆り出されるので、遠来の客泣かせの祭りとしても知られている。

だんじりは高さ約5メートル、重さ約800キロ。白木か漆塗りで作られた2階建て、3階建ての家型で、四方には武者絵や花鳥などの彫刻が施されている。台車に載せて押しながら移動することもあるが、西条のだんじりは他の地域とは異なり、肩に担いで行進する。

一方、左右二つの車輪が付いたみこしは重さが3トン弱もある。全体が刺繍で飾られていて、頂上に人が乗るので、見た目でだんじりと区別出来る。伊曽乃神社にはだんじりが77台、みこしが4台奉納される。一つの神社に奉納される屋台の数としては他に例がない。

殿様も愛した動く元禄絵巻

発祥は定かではないが、伝承では宝

暦11（1761）年頃、文献にだんじりが登場する。石岡神社の別当寺であった吉祥寺の住職が河内の誉田八幡社の藤だんじりを見て、これに似たものを竹で作り、花籠だんじりを奉納したのが始まりと伝えられている。後に近郷の神社にも奉納され、東予一円に広まったという。歴代の西条藩主も支持したため、次第に盛んになった。西条のお殿様がいかに祭りに熱を上げていたかが分かるエピソードが残っている。

江戸城の大広間で、隣に座った仙台藩の伊達公が領地の祭り自慢を始めた。それを聞いた西条藩の松平公は「当地の祭りは更にすばらしいものである」と返し、後日、絵師に描かせた祭り絵巻を伊達公に贈らせた。この「西条祭絵巻」は現在、伊曽乃神社の社宝となっている。

戦後の衰退期があったものの、だんじりやみこしを新調する地区も増え、40年くらい前には40台程度しかなかったこうした屋台はどんどん増え、年々祭りそのものが盛大になっている。

始まると同時に一気にピークへ

毎年10月10日前後の日曜日に市内あちこちで収納庫が立ち始め、中でだんじりの組み立てが始まる。半日ほどで完成させ、14日の夕方から前夜祭として町内をお披露目歩きする。待ちに待

った祭りがいよいよ始まるのだ。しかし、はやる気持ちもほどほどにして、かき夫たちは宮出しのためご神体を迎えに行く深夜に備える。

日が変わった午前0時過ぎ、各町内からだんじりとみこしが伊曽乃神社へ向かう。祭りが始まったばかりだというのに、既に道中の盛り上がりは最高潮。常時20人程度がだんじりを担ぎ、周りを取り巻く町内会の人たちと共に伊勢音頭を唱和する。この伊勢音頭のテンポが歩くスピードともよく合うようで、どのだんじりからもこの歌が聞こえて来る。それにしても真夜中だというのに静かな住宅地で軽快な太鼓の音が鳴り響く。苦情が来そうものだが、この2日間だけは無礼講。夜を通してだんじりとみこしが街を駆け巡る。

すべてのだんじりとみこしが伊曽乃神社の境内にそろうのは午前4時頃。お宮から神様を乗せたみこしが出ると、熱気のピークはいったん収束される。夜明けと共に、だんじりとみこしは街を練り歩きながら各町内へと帰って行く。

日中は自主運行となる。4台のみこしは商店街に集合してかき夫全員がみこしを押しながら走る「かきくらべ」を、だんじりは自地区に戻って「お花集め」に精を出す。西条祭りには、だんじりやみこしに「お花」をあげる習

伊曽乃神社は女性である天照大神を祀っているため、昔は女性がだんじりを担ぐことが出来なかった

慣がある。お花とは、お金や酒の一升瓶のこと。酒はそのまま飲むこともあるが、主に運行資金となる。この日お店を開けておくと、方々からだんじりが集まってくる。花を要求されたら拒むことは許されないとあって、どのお店もあらかじめ用意している。商店街でだんじりがお花集めをしている所に出くわしたが、だんじりを上下に揺らす様子が、おねだりをしている子どものようで、やけに愛らしく見えた。

そして祭りはクライマックスへ

伊曽乃神社を出た神様は、御旅所と呼ばれる分社で1泊する。16日の深夜、いったん市内に戻っただんじりとみこしは、再び神様にごあいさつするため御旅所を目指す。それにしても、提灯に蝋燭を灯して行進する100を超えるだんじり・みこしの姿はうっとりするほど幻想的だ。

16日夕刻、加茂川にだんじりが勢ぞろいし、伊曽乃神社へ戻るみこしとの別れを惜しむ

朝方に勢ぞろいしたのも束の間、午前5時には「御殿前」と呼ばれる旧西条藩主邸跡（現西条高校）へ向かう。今度はお殿様へのあいさつだ。神様を乗せたおみこしが御旅所を出発すると、だんじりはそのお供をして市内を巡る。この行進から統一行動となり、すべてのだんじり・みこしに番号札が付けられ、順番に並んで古くからの決まった経路を巡行する。これを取り仕切るのは、黒い衣装に身を包んだ鬼頭と呼ばれる行列の監督たち。鬼頭に率いられた、かき夫たちは、この時点でほとんど不眠不休の状態だ。それでも午前10時前後、御殿前で多くの観客に見守られながら、上下左右に倒れる寸前までだんじりを揺らす威勢の良いかきくらべを見せていた。

そしていよいよクライマックス。午後4時頃、神様を乗せたみこしは土手を降りて加茂川を横切りながら、伊曽乃神社の境内へと帰っていく。土手には横一列に約70台のだんじりが並んで神様が神社へ帰るのを見送るのだが、10台だけが川に入り、神社に帰ろうとするおみこしの邪魔をする。祭りが終わるのが名残惜しいため、川の中でみこしとだんじりでもみ合いになるのだ。このだんじりの行動に、祭りが好きで好きでたまらない西条の人々の気質が現れているように思えてならない。

郷土自慢・クラブ自慢

西条ライオンズクラブの郷土自慢は、西条祭りの花集めにも欠かすことの出来ない「日本酒」。西条市は古くから名水の町として呼び声が高い。市内には「うちぬき」と呼ばれる地下水の自噴井が広範囲にわたって存在し、その数は2千本とも言われている。水源は西日本最高峰の石鎚山を中心とした高山群。石鎚山系の伏流水は、環境庁が主催する全国おいしい水の鑑評会でここ最近2年連続の日本一に輝いている。酒造りにも適した中軟水であるこの水を使って酒を仕込むのが石鎚酒造（ライオン越智英明）。杜氏制をやめ、蔵元家族4人による酒造りを始めたのが1999年。以来「食中に活きる酒造り」を目標に、3杯目からうまくなる酒を造り続けている。造る酒は半分以上が純米か純米吟醸というが、ブランド名を「石鎚」に統一し、さまざまなラインアップを取りそろえている。

▼西条ライオンズクラブ（徳増達史会長／53人）＝1961年10月19日結成／スポンサー：新居浜ライオンズクラブ

読者から―11月号

■市民参加型の活動でPRを

今期、クラブのPR委員長を務めており、THEME「PR大作戦」を大変興味深く読みました。地域の情報紙（全戸無料配布）を発行する会社の社長が入会されてから、市内クラブの活動が情報紙上で少し大きめに扱われるようになり、PRの王道と感じるところです。が、地道で幅の広い活動のためか、効果は疑問です。市民参加型にするなど、アクティビティ自体に興味を持ってもらえるような活動を考えていきたいと思います。

北海道・北見白樺ライオンズクラブ●熊谷淳史

■クラブPRに有用なヒント

現時点ではアクティブ・ユーザーでさえ評価も定まらないソーシャルメディアを大きく掲載された姿勢に感心しました。ただ、読者層を鑑みると俯瞰的な現状説明に留まらざるを得ない実情も理解出来ますが、個人的には物足りなさを感じました。一方で、クラブPRの具体的方策としてプレス・リリース活用は有用なヒントだと思いました。そちらにもっと重点を置き、具体例を紹介して頂きたかったと思います。

東京世田谷ライオンズクラブ●山本康弘

■若手の活動に期待

会員が高齢化する中で、青年アカデミー委員会を立ち上げて活発に活動している337・A地区を取り上げた「ピックアップ」に深く感銘を受けました。332・D地区でも会員が減少し、若い会員がなかなか入会してこない厳しい現状を憂いております。当地区でも青年アカデミー委員会を立ち上げられないか提案していきたいと思います。

福島県・郡山西ライオンズクラブ●荒川友成

■感動覚えたリポート

「クラブ・リポート」に紹介された愛媛県・今治東ライオンズクラブのアクティビティ、視覚障害者にタンデム自転車でしまなみの風を感じてもらおうという「ブラインド・サイクリング」の記事で、参加者の「障害を忘れる瞬間だった」という言葉に、同じライオンとして感動しました。

宮崎県・高原ライオンズクラブ●末岡優

ライオン誌事務所来訪者芳名録

月	日	クラブ	氏名
11	2	石川県松任	安井壽一郎
11	2	石川県松任	小柳 晶裕
11	2	石川県松任	塩田 哲也
11	2	石川県松任	村井 明夫
11	2	東京隅田川	瀧澤 賢司
11	4	東京鶯谷	藁谷 和家
11	5	高知桜	二宮 邦江
11	8	東京	池崎 道男
11	12	山口県宇部かたばみ	波多野知三
11	12	沖縄県石川	新垣 暉文
11	15	北海道札幌グリーン	高野 倫行
11	16	埼玉県大宮氷川	深見 秀雄
11	16	埼玉県川越初雁	八木 拓也
11	16	千葉県野田	高木 次雄
11	16	千葉県野田	吉岡 稔隆
11	16	千葉県松戸ユーカリ	高橋 昌男
11	24	千葉県浦安中央	杉山 民生

ライオン誌例会のススメ

『ライオン』誌をクラブ例会でご活用ください。本誌記事の中から、会長あいさつやスピーチのネタが豊富に見つかるはずです。

●今号のTHEME「水辺の環境を守る」では、地域の河川の環境を守る2クラブの活動を紹介しました。自分たちの地域の川の環境は今どうなっているのか、調べて発表してみましょう。また川にまつわる思い出をみんなで語り合ってはいかがでしょうか。

●クラブ・リポートには、全国のアクティビティの事例がいっぱい。自分たちの地域にもこんなニーズがありそうだ、という活動について紹介してはどうでしょう。

★「ライオン誌例会開催ガイド」が出来ました。通常例会の中にライオン誌関連のプログラムを取り入れたり、ライオン誌に関する特別例会を企画するなど、クラブ例会における本誌の活用方法を提案しています。ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）でPDFファイルをダウンロードしてお使いください。

ライオン誌投稿要領

■クラブ・リポート今月号32～42ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。写真があれば添付。

■獅子吼今月号43～47ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。

▼アクティビティ写真は動きのあるものを。記念撮影のような写真は掲載に適しません。

▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。

▼住所、氏名、クラブ名を明記。

送付先：〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630
E-mail：edit@thelion.jp

もう一度読みたい「あの記事」

●2003年1月号 こころのチキンスープ ライオンズ編

「冬の舞鶴は暖かかった」

『ライオン』誌バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

昨日に続く今日のように、今日に続く穏やかな明日が来るに違いないと誰もが思っている。異形の明日が来るだろうなどとは、考えもしない。あの時もそうだった。1995年の1月16日、神戸湊川ライオンズクラブの事務局に勤める中西敦子さんは、いつものように床についた。

不意にドドーンとものすごい音がした。とっさに「地震だッ」と直感した。17日午前5時46分を回った頃のことだった。冬の朝はまだ暗かった。すぐ両親のことが気になった。幸い、母は軽いけが程度のことで済んだが、父は、胸を強く打ったらしく、強い痛みが取れなかった。街は騒然としていた。家が崩れ、燃え、着の身着のままの人があふれ、街全体が異様な臭いに閉ざされていた。異形の今日という日が始まっていた。

とにもかくにも、落ち着き先をどこかに定めなければならなかった。叔父が京都府舞鶴の病院に赴任していた。その叔父を頼ろう、ということになった。

20日の朝6時、舞鶴に向かった。ようようの思いで、雪の舞鶴に着いたのは午後2時を回った頃だった。気がつけば、地震の日から4日、顔も満足に洗っていなかった。

診察を受けた父の容体は思ったよりも重く、ろっ骨が2本折れていた。何からどう手を付けたらよいのか、中西さんは見当もつかなかった。10年あまり続いた神戸湊川ライオンズクラブ事務局へ通う日々が、突然目の前から消えていた。

4日ほどたった。急に、「マンスリー・レポートを出さなきゃ」と思った。地区には毎月5日までに報告書を出すことになっていた。

「出さなくちゃ。でも、紙も資料も何にもない。どうしよう」

ふと、ひらめいた。

「世界中にあるクラブだもの、舞鶴にだってあるよ」

急いで電話帳を開いた。あった。舞鶴ライオンズクラブがあった。事務局は歩いて行ける所にあった。事務局の小森津技子さんも、メンバーたちも全く初めて会った人たちなのに、何年も前からの知り合いのように迎えてくれた。電話、コピーから、ファクスまで、自由に使わせてもらい、まるで神戸の事務局にいるみたいだった。

連絡をとったら、クラブのメンバーにも2人の犠牲者が出ていた。いつも優しかった僧職の会員は、娘さんをかばい、自らは倒れかかる戸板を支え息絶えていた、という。17人もの会員が家を失い、事業所を失っていた。

聞きながら、中西さんは息が止まりそうだった。込み上げてきた。そんな中西さんを、事務局の人やメンバーたちが代わる代わる励まし、話を聞いてくれた。話すことで気持ちが静まった。傍にいてもらえるだけで優しさが伝わってきた。中西さんの回想。

「それまで、10年以上続けた毎日が一遍に崩れ去ったわけで、急に訪れた生活に対応出来ず、切羽詰まってあがいている自分がいた。正体のないものに溺れそうな私を優しく包んで助けてくれる何かがあった。舞鶴は暖かい。雪がいっぱい積もっていたのに、寒さを全然覚えていないのです」

桜咲く4月、中西さんは舞鶴を後にした。舞鶴が忘れられない土地になった。（構成／青山研）

読者プレゼント

■西条の「石鎚」を5人に

「ふるさと探訪」(49ページ)で紹介した愛媛県西条市の「石鎚 純米吟醸緑ラベル 槽しぼり」(720ミリリットル)を5人の読者にプレゼントします。名水の町として知られる西条で、石鎚山系の清冽な水を仕込み水に用いる石鎚酒造(ライオン越智英明／西条ライオンズクラブ)は、家族4人でこだわりの酒を手造りしている小さな酒蔵です。

応募要領：はがきに「石鎚」と明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0)からオンラインでの応募も出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は1月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

次号予告

THEME
世界で奉仕するライオンズ

世界206の国と地域で支援を必要とする人々のために活動するライオンズ。国際本部が発行する英語版『ライオン』誌に掲載された記事の中から、世界各地のライオンズの奉仕する姿を紹介する。

Pick up **女性会員ワークショップ**

11月14〜16日、東京で開かれた女性会員ワークショップは、国際協会が日本の女性会員の現状を把握しようと開催したもの。参加した13人から出された意見から、今後の課題を考えてみる。

ふるさと探訪 **新潟県長岡市**

日本はもとより海外でも親しまれている錦鯉の養殖は、今は長岡市に属する旧山古志村で始まったと言われている。「泳ぐ宝石」とも呼ばれる錦鯉の産地を訪ねる。

築地通信

●公式訪問中、国際会長夫妻は福岡市のアイランドシティ中央公園にあるライオンズの森を視察した。天気も良く、記念植樹を終えた夫妻は園内を散策しながら、つかの間の息抜き。奥には植物園もあり、ガーデニングが趣味というジュディ夫人は興味津々。温室に入るや蝶を見つけて大喜び。聞けば蝶が好きで、自宅の庭には蝶が好む花木を選んで植えているという。するとその側で、穴を掘るのはボクだけどね、というつぶやきが聞こえた。(すずき)

●高雄フォーラムに参加された皆さんの多くは六合夜市に足を運ばれたはず。両側にびっしり屋台が並んだ通りはまるで祭のようなにぎわい。種類豊富な海鮮類や、鮮やかな血色の臓物類などを並べた屋台では、食材を選ぶと、すぐ後ろで勢いよく炎を上げながら手際よく調理してくれる。見惚れるような手際で次々と水餃子を包み、茹で上げていく店も。こんな豊かな食文化はずっと失われずにいてほしい。(かわむら)

●訂正とお詫び

12月号「THEMEⅡ希望の光」で、14ページ記載の日本ライトハウス創設者名は、正しくは岩橋武夫でした。同21ページ3段目、ライオン村上が地区ガバナーに就任したのは07年度の誤りでした。お詫びして訂正致します。

ライオン誌広告料金表

区分	種別／スペース	金額
表紙2	…4色／1ページ	………￥600,000
表紙3	…4色／1ページ	………￥500,000
表紙4	…4色／1ページ	………￥700,000
記事中	…4色／1ページ	………￥480,000
記事中	…1色／1ページ	………￥270,000
記事中	…4色／3分の1ページ	…￥160,000
記事中	…1色／3分の1ページ	…￥110,000
ハガキ	…1色／1葉	……………￥700,000

※年間契約：年3回以上の出稿を条件に5〜25%の割引制度があります

※会員割引：ライオンズクラブ会員は10%の特別割引があります（年間契約との併用可）

問い合わせ先：ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
電話：03-3542-9571
ファクス：03-3546-2630
Eメール：office@thelion.jp

ソフトクリームの思い出

ライオン誌
日本語版委員
◉
後藤　忍
（北海道・函館グリーン）

2010年の記録的な猛暑も終わりが見え始めた9月に、同じクラブに所属するライオン亀谷孝が63年の生涯を閉じました。彼とは38年前にほぼ同時期に入会して以来、兄弟同様に行動を共にして、私が331-C地区ガバナーを務めた時はキャビネット会計を引き受けてくれた長年の朋友でした。お別れの席ではソフトクリームが配られ、それを舐めながら、彼と一緒に参加したアクティビティのシーンがよみがえってきました。

30年程前のこと、同地区内の八雲ライオンズクラブとの合同事業で、筋ジストロフィー患者の子どもたちを函館市内のデパートに招待し、ショッピングを楽しんでもらう企画です。八雲町の国立病院から車で2時間掛けてやってきた子ども1人をライオン2人が担当することになり、私と亀谷さんは特殊な車いすに乗ったナオコちゃんの世話役になりました。体つきは小学生ぐらいにしか見えませんでしたが、18歳のかわいい女の子でした。

彼女が最初に行ったのは化粧品売り場です。そこで淡いピンク色の口紅を買い、次に雑貨売り場で手鏡と髪留めを購入しました。買い物の相談をしながら打ち解けた3人は意気投合し、楽しい一時を過ごしました。帰りの時間が近づいてきた時、ナオコちゃんは「千円のお小遣いのうち200円を残したからご馳走します」と言って、ソフトクリームを買ってくれました。彼女にとって貴重なお金の中からと考えた時、思わず涙がこぼれたのを覚えています。

それから2年後、病院にお見舞いに行ったら「1年前から症状が悪化して半年前に永眠しました」と告げられました。これからもソフトクリームを見る度に、2人を思い出すでしょう。

夢と期待を持ってライオンズに入会し、早い時期に感動的な体験やすばらしい出会いと巡り会ったメンバーは幸せです。今期はライオン誌委員として全国の感動的な事業や心に残る話の編集を提案し、ライオンズクラブの原点を探してみたいと思っております。

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

EXECUTIVE OFFICERS
President Sid L. Scruggs III, 698 Azalea Drive, Vass, North Carolina, 28394, USA; Immediate Past President Eberhard J. Wirfs, Am Munsterer Wald 11, 65779 Kelkheim, Germany; First Vice President Dr. Wing-Kun Tam, Unit 1901-2, 19/F, Far East Finance Centre, 16 Harcourt Road, Hong Kong, China; Second Vice President Wayne A. Madden, PO Box 208, Auburn, Indiana 46706, USA.

DORECTPRS
Second year directors
Luis Dominguez, Mijas Pueblo, Spain; Gary B. D'Orazio, Idaho, United States; Yasumasa Furo, Dazaifu, Japan; K. P. A. Haroon, Cochin, India; Carlos A. Ibañez, Panama City, Panama; Ronald S. Johnson, Maine, United States; Byeong-Deok Kim, Seoul, Republic of Korea; Horst P. Kirchgatterer, Wels/Thalheim, Austria; Hamed Olugbenga Babajide Lawal, Ikorodu, Nigeria; Daniel A. O'Reilly, Illinois, United States; Richard Sawyer, Arizona, United States; Anne K. Smarsh, Kansas, United States; Jerry Smith, Ohio, United States; Michael S. So, Makati, Phillippines; Haynes H. Townsend, Georgia, United States; Joseph Young, Ontario, Canada.

First year directors
Yamandu P. Acosta, Alabama, United States; Douglas X. Alexander, New York, United States; Dr. Gary A. Anderson, Michigan, United States; Narendra Bhandari, Pune, India; Janez Bohorič, Kranj, Slovenia; James Cavallaro, Pennsylvania, United States; Ta-Lung Chiang, Taichung, MD 300 Taiwan; Per K. Christensen, Aalborg, Denmark; Edisson Karnopp, Santa Cruz do Sul, Brazil; Sang-Do Lee, Daejeon, Korea; Sonja Pulley, Oregon, United States; Krishna Reddy, Bangalore, India; Robert G. Smith, California, United States; Eugene M. Spiess, South Carolina, United States; Eddy Widjanarko, Surabaya, Indonesia; Seiki Yamaura, Tokyo, Japan; Gudrun Yngvadottir, Gardabaer, Iceland.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

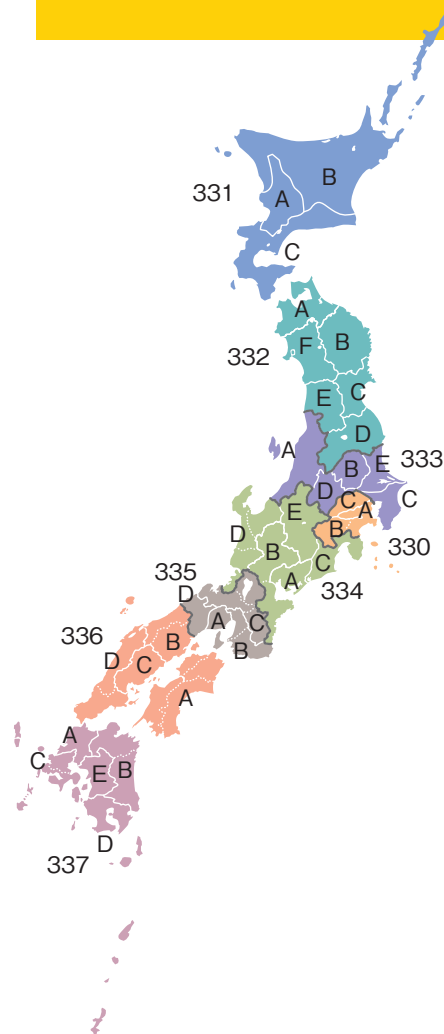
ライオン誌日本語版委員会
国際理事　不老安正
国際理事　山浦晟暉
委員長　秋山詔樹（330複合地区）
編集長　小田邦雄（336複合地区）
委員　後藤　忍（331複合地区）
委員　種市一二（332複合地区）
委員　林　静誠（333複合地区）
委員　砂田繁雄（334複合地区）
委員　竹本實生（335複合地区）
委員　澁田繁晴（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2010.11.30　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	会員数増減
330-A	東京	200	5,163	4,481	682	29
330-B	神奈川·山梨·東京	181	5,146	4,561	585	70
330-C	埼玉	101	2,632	2,316	316	-14
330	計	482	12,941	11,358	1,583	85
331-A	北海道(道央)	75	2,583	2,412	171	-2
331-B	北海道(道北·道東)	91	2,579	2,471	108	38
331-C	北海道(道南)	56	1,858	1,676	182	40
331	計	222	7,020	6,559	461	76
332-A	青森	66	1,785	1,637	148	26
332-B	岩手	54	2,216	1,576	640	79
332-C	宮城	77	1,424	1,304	120	0
332-D	福島	78	2,074	1,882	192	59
332-E	山形	58	1,863	1,676	187	16
332-F	秋田	51	1,312	1,101	211	-6
332	計	384	10,674	9,176	1,498	174
333-A	新潟	78	2,875	2,617	258	68
333-B	栃木	58	1,640	1,203	437	51
333-C	千葉	136	3,575	3,003	572	64
333-D	群馬	53	2,104	1,765	339	48
333-E	茨城	80	2,903	2,602	301	17
333	計	405	13,097	11,190	1,907	248
334-A	愛知	122	5,480	4,960	520	144
334-B	岐阜·三重	83	3,713	3,412	301	23
334-C	静岡	84	3,249	3,129	120	50
334-D	富山·石川·福井	98	4,025	3,785	240	51
334-E	長野	53	2,110	1,935	175	47
334	計	440	18,577	17,221	1,356	315
335-A	兵庫(東)	101	2,605	2,249	356	35
335-B	大阪·和歌山	194	6,013	5,347	666	115
335-C	滋賀·京都·奈良	121	4,077	3,769	308	52
335-D	兵庫(西)	68	2,110	1,893	217	6
335	計	484	14,805	13,258	1,547	208
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	152	5,829	5,188	641	87
336-B	鳥取·岡山	96	3,173	2,893	280	15
336-C	広島	102	3,641	3,446	195	54
336-D	島根·山口	103	3,355	3,129	226	97
336	計	453	15,998	14,656	1,342	253
337-A	福岡·長崎	117	4,572	4,068	504	103
337-B	大分·宮崎	75	2,374	2,226	148	54
337-C	佐賀·長崎	84	3,023	2,610	413	46
337-D	鹿児島·沖縄	81	2,483	2,278	205	26
337-E	熊本	56	1,600	1,459	141	-9
337	計	413	14,052	12,641	1,411	220
総計		3,283	107,164	96,059	11,105	1,579
世界のライオンズの		7.1%	8.0%			

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2010.11.30　国際協会集計

ライオンズ国または領域	206
世界のクラブ数	46,064
世界の会員数	1,345,725
期首からの増減	6,784

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,607	365,236	-3,906
インド	5,897	200,011	4,904
韓国	2,080	85,709	2,425

ライオン誌1月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2010年(平成22年)12月20日発行　毎月1回20日発行　第53巻第7号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい!

Lions Clubs International
FOUNDATION

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lionsclubs.org/JA/content/lions_lcif.shtml